

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

寒川地区



2025 年 1 月

小山市

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 寒川地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告	2
5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告	3
1 寒川地区の概況	
2 地域の自然について	4
3 地域の自然への人の働きかけについて	10
4 地域と人々の心身の結びつき	18
5 景観から読みとれるその他のこと	22
III 簡易社会調査による報告	27
1 目的と実施概要	
2 結果整理の手法について	28
3 各調査の結果報告	29
3-1 グループインタビューの記録	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察）	53
参考・引用文献	68

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はⅡ章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることになる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えていくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素の間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和6年4月4日から令和6年6月30日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせて行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

寒川地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせて、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等はどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。市民の協力を受け、踏査に同行いただいた経路もあった。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 ― 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 ― アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取り組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和6年9月6日(金) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市寒川公民館

5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

1 寒川地区の概況

寒川地区の位置、面積、人口と沿革

寒川地区は、明治 22 年（1889）の町村制施行にあたり寒川郡が廃され、同郡中里、鏡、寒川、迫間田村が下都賀郡に編入し、同郡の押切村と組織した新村、寒川村をもととする。地区の面積 6.44km² は市の面積の約 3.7%、人口 1,222 人は市の人口の約 7.3%を占める。（令和 6 年 4 月 1 日現在。「小山市統計年報 令和 6 年度版」より）。

寒川地区は、思川低地に立地する。おおむね地区の東側の縁は与良川、西側の縁は北部で永野川、中部から南側で永野川と合流した巴波川に限られる。現在の栃木県域への弥生文化の波及は弥生時代中期前半のことで、小山市域でも同様と考えられ、以降の寒川古墳群に見られる前方後円墳の集中は、寒川地区における水稻稲作を中心とした農業生産力の高さに基づくと考えられている。さらに、古代には今日の小山市域の北側に東山道が通され、思川西部には下野国府が置かれ、それより南側に条里制がしかれ、地区と周辺は寒川郡と呼ばれるようになり、近世には野木から栃木へ抜ける日光山裏道と巴波川の水運を擁した。小山市域では河川交通の発達との関係から多かつたと指摘される和算家を、寒川地区からも輩出している。

こうした寒川地区では、全体に平坦な中でも微高地を集落と畑、低湿地を水田に使い分ける、地区の環境条件に即した土地利用の基本形が、弥生時代中期前半（中期は紀元前 1 世紀頃より）以降一貫して続けられている。つまりは、今日でいう生態系サービス、自然の恵みに当たる食料生産と準自然的な環境調整を当地区が担い、保ってきた期間は 2100 年にも及ぶことになる。

特異な地位と文化性

寒川の地名は、古代より寒川郡と郡名に冠せられてきた。また、胸形神社と現在の間々田地区の安房神社の二社が一つの郡から式内社に選ばれたことや、小山政光、後白河上皇、伊勢神宮の順に郡内の一部が寄進されて、「寒川御厨」とされたことなどから、当地区には古格が認められるとしてもよいのではなかろうか。

さらに、郡出身者の防人の歌が万葉集に選ばれ、胸形神社に合祀された天満宮（学問の神様）の行事である花桶かつぎが受け継がれ、近世には和算家が地区で生まれたことを含めて、その地位と文化性が特筆に値する地区であるといえる。

渡り鳥の重要渡来地

寒川地区においても、河川低地の低湿地は、明治以降圃場整備され、乾田化されている。しかし、今日、冬期と夏期の湛水事業を小山市が先導し、農業者がそれに応えている。乾田や収穫を終えた麦畑を短期的に湿地に戻す、夏期の湛水事業「なつみずたんぼ」の効果に関する調査では、寒川地区を含む栃木県南部水田地帯が、シギ・チドリ類などの渡り性水鳥が使う「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」の保持に貢献していることが確認されている。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

園田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。結果は、図解的にスライドとしてまとめた。以下、順に掲載する。図1には、再び風土の定義を示した。

出典 | 園田稔編『神道』（弘文堂、1988年、総372頁）。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』（那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁）

踏査は、以下の日程で実施した。

04月04日(木) 胸形神社・巴波川

05月10日(金) なつみずたんぼ

16日(木) 中里

06月08日(土) 南部 迫間田・寒川・迫間田・寒川・中里

10日(月) 北部 中里・押切・鏡

24日(月) 北部 (追加) 鏡

なお、本地区は思川低地に位置し、ほぼ全域が洪水浸水想定区域に当たる。簡易社会調査では、水害や農業の継承への不安を示す回答が上位を占めた。このことについて、はじめに整理する。

報告のはじめに

思川低地は、川が氾濫を繰り返してできました。
その中で、縄文時代後期以来、人が自然と
折り合って生きてきた歴史が当地にはあります。

しかし、寒川地区が位置する巴波川流域では、
上流部で市街化が進み、植林の管理が不足し、
雨水が流出しやすくなり、気温上昇から
雨量は増え、災害の危険度が増しています。

図2 巴波川流域における環境の変化について

土地利用の変化、国内の林業を取り巻く状況、気候変動等の影響から、災害の危険度は増している。

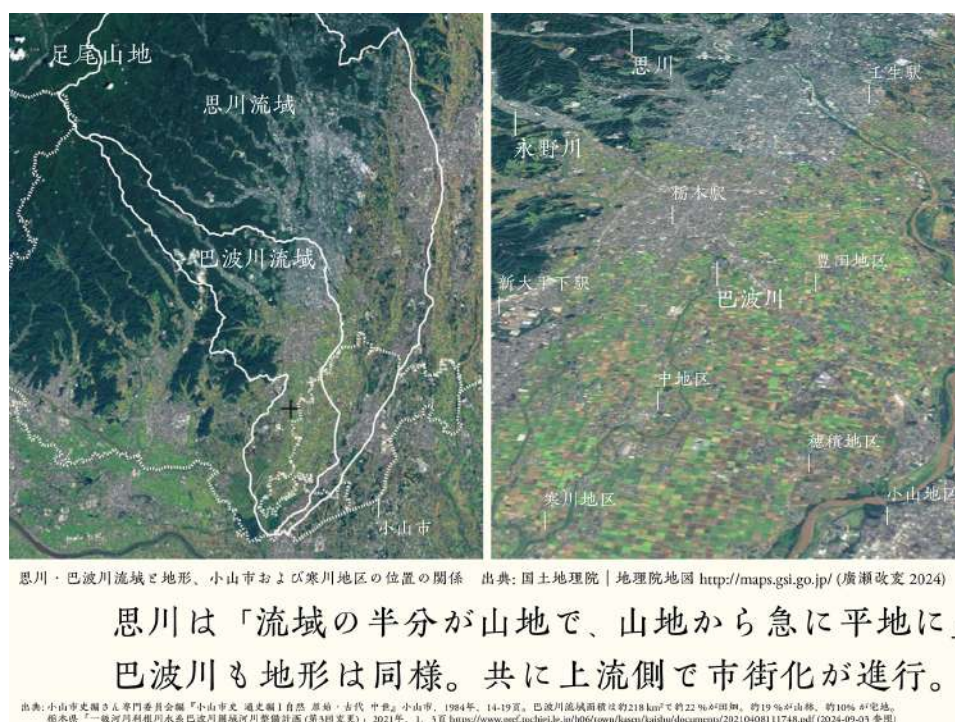


図3 巴波川流域と地形、小山市および寒川地区の位置の関係

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

II 踏査および文献調査による報告

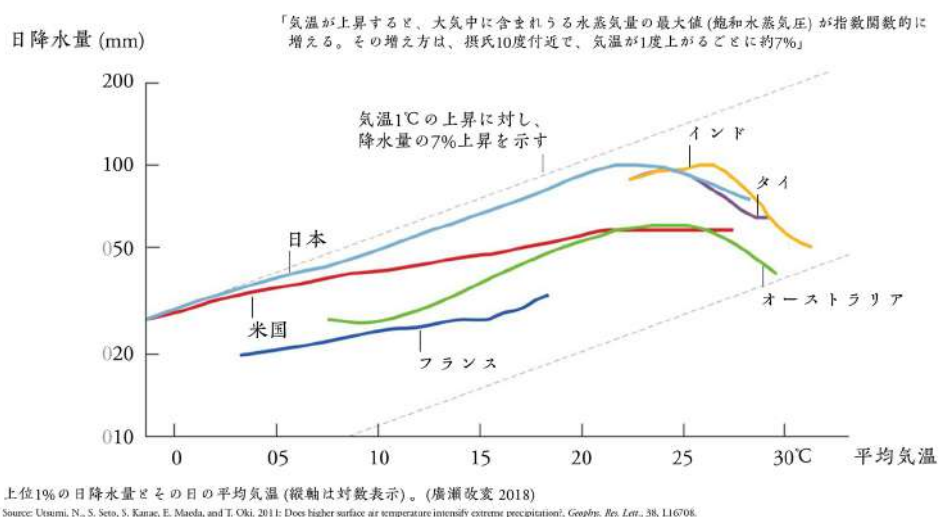


思川・巴波川流域の植生 出典: 生物多様性センター | 自然環境調査Web-GIS | 植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/> (廣瀬改変 2024)

両川源流域の山林では、広範囲で針葉樹の植林を。
写真のように管理不足であると、治山治水に難が。

図4 思川・巴波川流域の植生

出典 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS | 植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/> (廣瀬改変 2024)



「海に囲まれた日本やオーストラリアでは、気温の高い日ほどほぼこの7%の傾きに沿って強い豪雨が」

宇都宮地方気象台における年平均気温の長期変化傾向は+2.3(°C/100年)。猛暑日の年間日数は10年当たり1.0日増加
出典: 宇都宮地方気象台・東京管区気象台「栃木県の気象変動 2021」

出典: 沖 大幹『水の未来—グローバルスタンダード日本』岩波書店、2016年、155-157頁

図5 上位1%の日降水量とその日の平均気温(縦軸は対数表示)。(廣瀬改変 2018)

気温の上昇に伴い、降水量は上昇する。このことに関する説明を、専門書ほかから引用して示す。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図6 市街地の非農家への田園部の農業の貢献について整理する。

参照 | 環境省自然環境局 | 生物多様性と生態系サービス <https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/valuation/service.html>

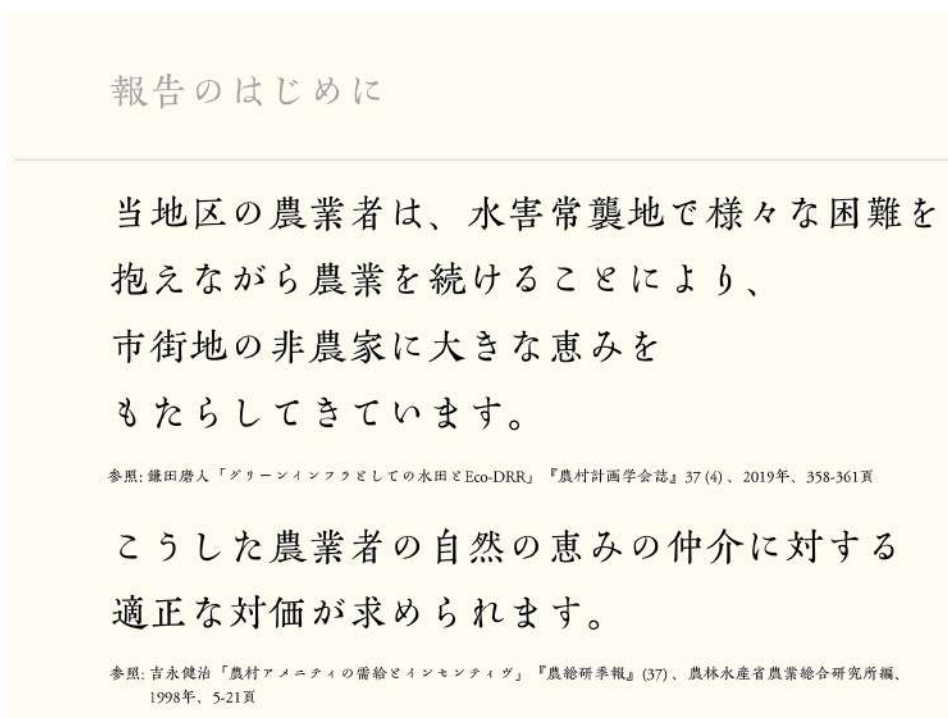
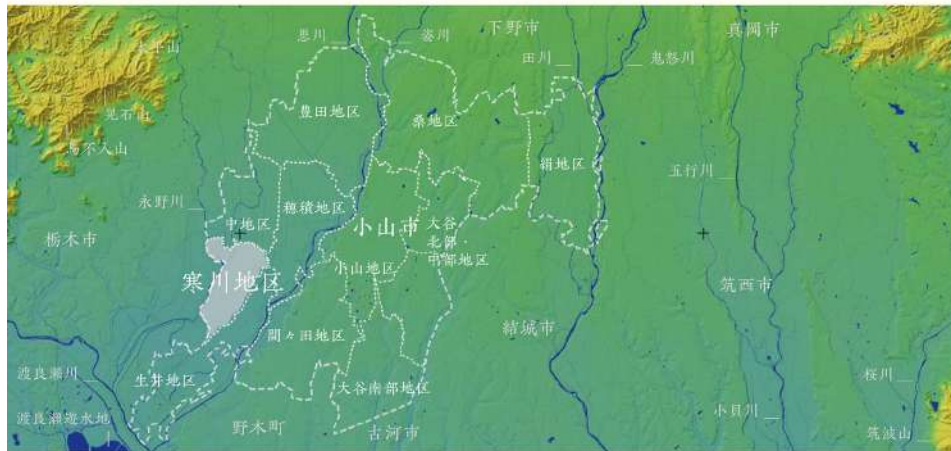


図7 寒川地区での農業継続・継承の困難さを確認し、その公益的価値を評価する。

河川低地は稲作等に向くが、水害に遭う危険も付随する。危険の除去・低減と共に、補償が求められる。

地域の自然について



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

寒川地区は、小山市西部に位置し、

図8 小山市の地区区分と寒川地区の位置

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、当地区はその西部に位置する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

思川低地上に立地していて、
地区の東縁がほぼ与良川に、西縁が北側で永野川、
南側で巴波川に限られています。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編1 自然 歴史 文化』小山市、1984年、10頁

図9 小山市と寒川地区の地形。地区の東西は、3つの河川にほぼ限られる。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 10 寒川地区の成り立ちを振り返る。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

青木知義「寒川小の前身」『ふるさと寒川 第2集』小山市立寒川小学校PTA 著・発行、1991年、34-35頁



出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 標準地図+陰影起伏図+明治期の低湿地 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

現代の地図に明治期の低湿地の分布を重ねます。
薄黄色は水田を表します。

図 11 低湿地に水田、微高地に集落が設けられ、水田は湿田から乾田に置き換えられた。

出典 | 国土地理院 地理院地図 | 標準地図+陰影起伏図+明治期の低湿地 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「本県に弥生文化が波及してきたのは、(中略)
弥生時代中期前半のことであり、
小山市域においても同様の時期に (中略)
水稲耕作を中心にした本格的な弥生文化が
流入してきたと考えられる」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、235頁

図 12 水稲耕作を柱とする弥生文化が、小山市域へ流入してきた時期について考える。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、235頁

「本市域において
湿田をつくりやすい
地域とは (中略)」
「河川の下流域の
自然堤防の背後に
できる後背湿地や
厚い堆積物をもつ
氾濫原のある思川の
西岸と巴波川下流の
周辺である」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ
自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、235頁



図 13 寒川地区における「湿田をつくりやすい」氾濫原（氾濫平野）の分布を見る。

出典 | 国土地理院 地理院地図 | 治水地形分類図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

地域の自然への人の働きかけについて

「とくに巴波川下流域には、『寒川古墳群』と称される前方後円墳の密集した遺跡が存在する。すなわち、前方後円墳の被葬者には、それに見合う経済的背景である農業生産力が伴っているはずであり、そこには弥生時代以来の農耕活動の伝統が生きていると考えられるのである」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、236頁

図 14 寒川古墳群の存在からも、当時の寒川地区の農業生産力の高さが窺える。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、236頁



押切・中里・寒川。寒川地区。1948/09/25。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-27 参照)

「鶴巻山古墳 (円 53 m 5世紀中) → 茶臼山古墳 (前方後円 77 m 5世紀後) → 毘沙門山古墳 (造出付円墳 32 m 5世紀末) → 三味線塚古墳 (前方後円 55 m 6世紀初) という築造順序が想定される」。

出典: 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、21頁

図 15 古墳群の規模と築造年代（想定）を整理する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、21頁

地域の自然への人の働きかけについて

「昭和53年（1978）に発掘調査された、
直径53 mの大型円墳である鶴巻山古墳の裾部は、
基底部から上が1 mあまりも現水田下に
埋没していたという実情を知るとき、
この地に弥生時代文化究明のための
調査のメスを入れさえすれば、
必ず遺構や遺物が検出されるはずである」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編1 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、236頁

図 16 現在までに、消滅したものを含めて前方後円墳 5 基、円墳 7 基が確認されている。

出典 | 農地、水、環境保全活動 中里毘沙門の郷「郷土の歴史、伝統・文化の継承」「寒川古墳群蹟」解説サイン、2010 年



毘沙門山古墳。中里。2024/06/08

「寒川古墳群では墳形・規模の変化はあるが、
継続して首長墓が継続され続けた。このことは、
寒川の勢力は大型墳の移動の中で一定の立場を
持ち続けていたことを意味」すると考えられます。

出典: 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳―伯仲 1 号墳の位置付けをめぐって―」『研究紀要 第 31 号』とちぎ未来
づくり財団 埋蔵文化財センター、2023 年、22 頁

図 17 毘沙門山古墳を遠望する。中里。2024/06/08

出典 | 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳―伯仲 1 号墳の位置付けをめぐって―」『研究紀要 第 31 号』とちぎ未来
づくり財団 埋蔵文化財センター、2023 年、22 頁

地域の自然への人の働きかけについて

「関東地方の条里制は、主として北関東に
大規模なものが施されたことが判明した」

「関東第二の規模をもつ例が下野国にみられる。
下野国府があった現栃木市田村町から南にのび、
現小山市の思川西部のほぼ全域にわたって
条里制が施されている」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、355頁

図 18 条里制は古代の土地区画制度で、南北の「条」と東西の「里」に土地を大区分した。

条里の一辺は6町=約654mで、内部を36個の方格地割に中区分し、さらにこれを区別して運用した。
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、355頁

地域の自然への人の働きかけについて

「方格地割は (中略) 巴波川流域で約5 km
(下初田から井岡周辺までにみられる。
なお、井岡から旧寒川村の迫間田まで
約4 kmの地域にもこれが認められた (中略) の
それぞれの地域に連続的に、
部分的には断続的ながら、
面積およそ一万余町歩にわたって (後略)」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、359頁

図 19 条里制による土地区画は巴波川流域で、南は寒川地区の迫間田まで及んだ。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、359頁

地域の自然への人の働きかけについて

「大化改新（645年）により大和政権の政治組織は強化され、律令国家の体制作りが進められる」

「下野国は律令国家の国内支配体制の最も北に位置している。（中略）中央と地方諸国とを直接に結ぶ幹線の交通路（中略）東山道が政権の東国支配の重要な動脈となり、その先端に」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、359-360頁

図 20 関東第二の規模で条里制が施されたことと、下野国の位置との関係を振り返る。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、359-360頁



写真左：脚形神社。寒川。2024/04/04 同右：[曼珠院本]『萬葉集 第20巻』（京都大学付属図書館蔵）

「旅行きに行く^{おもし}と知らず^{こぞ}て母父に言申さずて今ぞ悔しけ」
8世紀に編さんされた『万葉集』に、寒川の先人、
川上臣老^{かわわらのおみおろ}が詠んだ防人の歌が収められています。

出典：奈良県立万葉文化館 | 万葉百科 | https://manyō-hyakka.pref.nara.jp/db/detail?cls=db_manyō&pkey=4376&dicCls=d_utabito&dicDataId=229&detaillnkIdx=0 (2024-08-27 参照)

図 21 防人は、大宝律令に続く養老律令に定められた、九州沿岸の警護に関する制度。

出典：奈良県立万葉文化館 | 万葉百科 | https://manyō-hyakka.pref.nara.jp/db/detail?cls=db_manyō&pkey=4376&dicCls=d_utabito&dicDataId=229&detaillnkIdx=0 (2024-08-27 参照)

地域の自然への人の働きかけについて

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、384頁

「下野国は、大上中下の四等級の中の上国で、
足利・梁田・安蘇・都賀・寒川・河内・芳賀・
塩屋・那須の九郡を管轄している」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、384頁

「『延喜式神名帳』に記載されている
いわゆる式内社としては、(中略)
寒川郡の阿房神社、胛形神社がある。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、387頁

図 22 寒川は下野国の郡名とされ、地区の胸形神社は式内社（官社）に指定されていた。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、387頁



南側の土俵から見た胸形神社社殿。寒川。2024/06/08

「胛（胸）形神社は、(中略) 巴波川の東岸に位置するが、
川幅を広げ堤を高くしたので、今は堤防のすぐ下に
(中略) 延喜年間から現在地に鎮座していたかは不明
(中略) 他所から現在地に遷ってきたという伝承が」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、388-389頁。『延喜式』は延喜5年(905)から延長5年(927)にかけて醍醐天皇の命により編さんされた

図 23 南側の土俵から見た胸形神社社殿。寒川。2024/06/08。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、388-389頁。『延喜式』は延喜5年(905)から延長5年(927)にかけて醍醐天皇の命により編さんされた

II 踏査および文献調査による報告



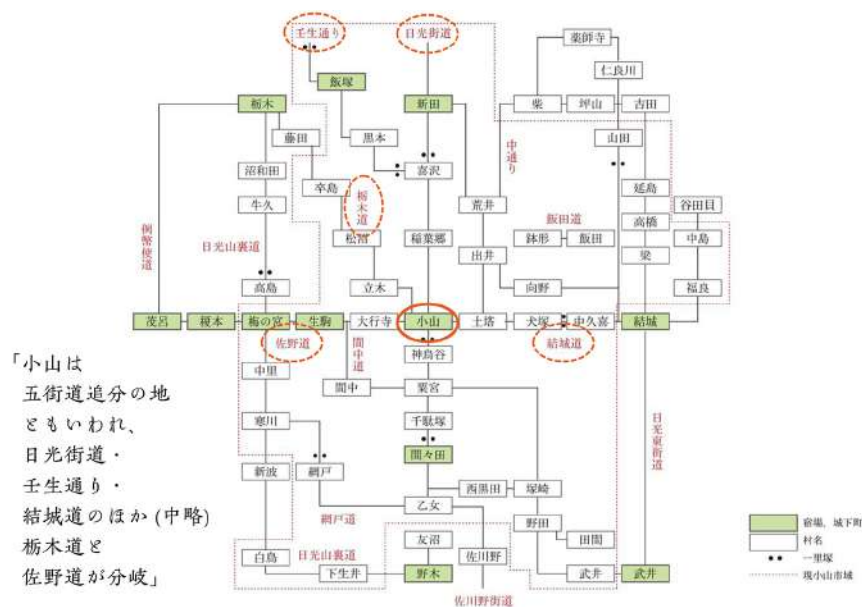
寒川の印のある国分寺瓦。出典: 喜納恵一郎「歴史の刻印」『心のふるさと』小山市企画部企画課編、小山市、1991年、85頁

「下野国分寺の瓦に、寒川と刻印が」「造営のため
都の職技が地方に (中略) 新しい生産を学習 (後略)」「
寒川の人を刺激したのは紙の製法でした。寒川は
氷らぬ川の意味で、その川水を利用して、良質の
紙を」「伊勢神宮の御厨の地位を得て」寒川御厨と

後時の寒河郡または小山庄は、小山政光→後白河上皇→伊勢神宮の順に寄進されて御厨に。出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、424-432頁

図 24 寒河郡または小山庄は、小山政光→後白河上皇→伊勢神宮の順に寄進されて御厨に。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、424-432頁



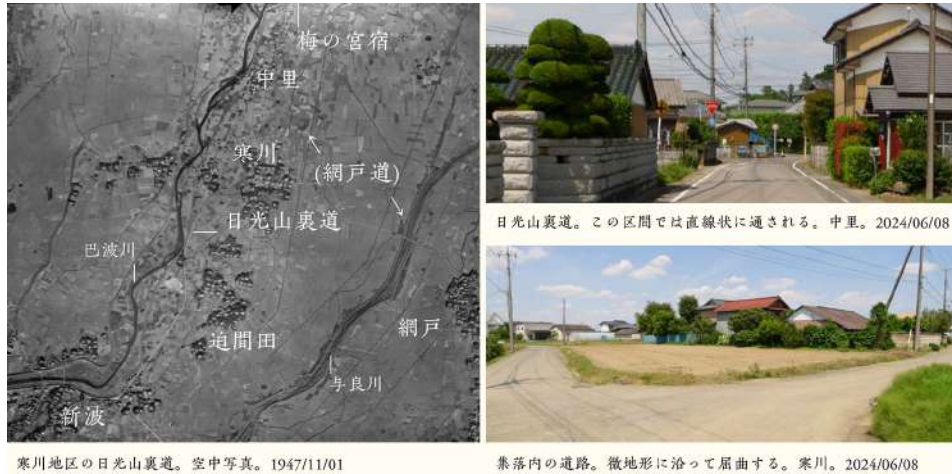
日光街道 (日光道中) と市城の脳道 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、260-261頁 廣瀬改変 2022

五街道追分の地を中心に、各地区も重要な役割を。

図 25 近世には街道と脇道が整い、古代、中世以来の交通の要衝としての性格が強まった。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、260-261頁 廣瀬改変 2022

II 踏査および文献調査による報告



寒川地区の日光山裏道。空中写真。1947/11/01

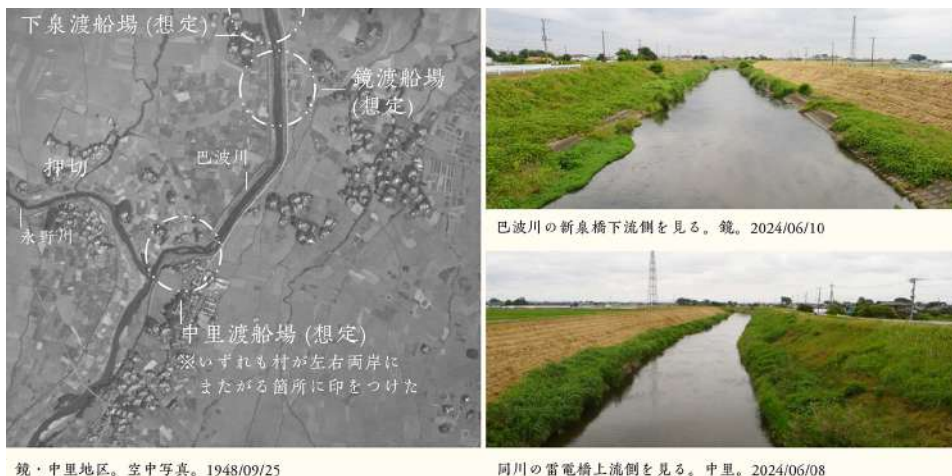
集落内の道路。微地形に沿って屈曲する。寒川。2024/06/08

「野木から下生井—新波—梅の宮を経て例幣使街道の
栃木宿か茂呂宿へとぬける道は、日光山裏街道、
または近裏道といい日光・栃木方面への間道として
利用」。寒川地区の村々も通りました。

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」<https://maps.gsi.go.jp> (2024-06-28 参照)。小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、261頁

図 26 集落の分布がはっきり見える 1947 年撮影の空中写真 (左) と今日の日光山裏街道。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986 年、261 頁



鏡・中里地区。空中写真。1948/09/25

同川の雷電橋上流側を見る。中里。2024/06/08

近世初頭の巴波川流域では、「白鳥・部屋・緑川・
鏡・下泉に渡船場があった」「中里村では、安政
6年 (1859) 7月には作渡渡船が開設」「この傾向は
明治期になっても続き、耕作船・渡船数の増加が」

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」<https://maps.gsi.go.jp> (2024-06-28 参照)。小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、488、501頁

図 27 当時、比較的「川幅の広い、水深のあるところに渡船場があったことになる」。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986 年、488、501 頁

4 地域と人々の心身の結びつき



中里神社。中里。2024/06/10

同左

「本社の特徴は、装飾彫刻です。(中略) 昨年代は嘉永2年で、作者は磯辺儀兵衛隆信 (栃木市大平町富田) と伝えられ、昭和55年市の有形文化財に指定」。

出典: 間々田商工会・小山歴史研究界「中里神社説明板」。嘉永2年は西暦1849年。磯辺一族の彫刻は、近隣では中地区の東箭神社(南小橋)、大川島神社(大川島)、熊野神社(上島)に残る。

図 28 磯辺一族の彫刻は、近隣では中地区の東箭神社、大川島神社、熊野神社に残る。

出典 | 間々田商工会・小山歴史研究界「中里神社説明板」



古御門神社。迫間田。2024/06/08

「11月27日御出社、野木神社より (中略) 午後 (夕方近く) 神馬飾り馬の頭、神主さんが乗って」「飾りに使用したものを (中略) 身に付けると、幸福を得ると」

出典: 大木源吾「明神様 (シャンシャン馬) (迫間田古御門神社のお祭り)」『ふるさと寒川』小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1988 年、39-42 頁。

図 29 文章は、大木源吾「明神様 (シャンシャン馬) (迫間田古御門神社のお祭り)」より。

上に引用した文は、『ふるさと寒川』(小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1988 年、39-42 頁) 所収

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



鏡神社。鏡。2024/06/10



観音寺。鏡。2024/06/10

(資料は確認できませんでした) 鏡神社社殿の精巧な装飾に注目します。竜宮門をかたどった観音寺鐘楼門と梵鐘 (人間国宝香取正彦作) についても同様です。

出典: 松丸俊明「観音時の沿革」『ふるさと寒川 第2巻』小山市立寒川小学校PTA著・発行、1991年、5-8頁

図 30 鏡神社の建築彫刻 (写真左) と観音時鐘楼門 (同右)。2024/06/10

出典 | 松丸俊明「観音時の沿革」『ふるさと寒川 第2巻』小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1991 年、5-8 頁

学校名	開校年月日	学校位置	開校時生徒数
開蒙舎	明治6年09月17日	中里村 東禅寺 ※廃寺跡	69人
開蒙舎分校 弘塵学舎	明治6年11月22日	迫間田村 正福寺	20人
開蒙舎 寒川村分校	明治7年4月28日	寒川村 寺院借用 ※名称不詳	28人

小学校設立一覧(寒川地区)。出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

明治6年(1873)に全国で小学校の設立が本格化。
「栃木県では、当面は在来の寺院等を借用する方針を採り(中略)小山市域に設立された小学校のほとんどは寺院を利用」。新築例は皆無でした。
寒川地区では、中里、迫間田、寒川に。

参照: 青木知義「寒川小の前身」『ふるさと寒川 第2巻』栃木県小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1991年、34-35頁

図 31 寒川地区における明治6年(1873)からの小学校設立について表にまとめる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年、73-86 頁

青木知義「寒川小の前身」『ふるさと寒川 第2巻』栃木県小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1991 年、34-35 頁

II 踏査および文献調査による報告



開蒙舎分校払塵学舎が置かれた正福寺。迫間田。2024/06/08



小山市立寒川小学校。現在の校舎は1971年落成。中里。2024/05/16

明治22年(1889)の町村制施行に伴う寒川村の成立後、開蒙舎は寒川尋常小学校に。昭和23年(1948)に寒川村立寒川小学校、昭和38年(1963)に現在の小山市立寒川小学校と改称。「新校舎は寒川地区に建設された鉄筋コンクリート建築第1号です」。

出典：年表「ふるさと寒川」 栃木県小山市立寒川小学校PTA著・発行、1987年、4頁。鈴木真三「第六代PTA会長の思い出」 栃木県小山市立寒川小学校PTA同書、26-27頁

図32 開蒙舎分校払塵学舎が置かれた正福寺（左。迫間田）と現在の寒川小学校（右。中里）。

出典 | 年表「ふるさと寒川」 栃木県小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1987 年、4 頁。

鈴木真三「第六代 PTA 会長の思い出」 栃木県小山市立寒川小学校 PTA 同書、26-27 頁



星宮神社。押切。2024/06/10



「星宮神社は（中略）近世では虚空蔵菩薩を神体と（後略）」
「押切では、今なお星宮神社のすぐ横に（中略）菩薩が」
「星宮神社は（中略）知恵の神様として信仰されている」
「現存最古の算額は栃木県佐野市星宮神社に」。
寒川では、和算家塚田宗川が寛政11年(1799)に生誕。
「小山市は河川交通が発達していたためか、比較的和算家の数も多い」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、250、599-601頁。同『小山市史 民俗編』小山市、1978年、452-453頁。
麓 和善・渡辺勝彦・内藤 昌「初期和算書における建築積算技術」『日本建築学会計画系論文報告集』363、1986年、115-124頁

図33 「知恵の神様」として信仰される星宮神社と和算の地域的関係を考える。

出典 | 『小山市史通史編 II 近世』1986 年、250、599-601 頁。同『小山市史 民俗編』1978 年、452-453 頁

麓 和善ほか「初期和算書における建築積算技術」『日本建築学会計画系論文報告集』363、1986 年、115-124 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



2017/01/28 門馬悠一撮影

地区の7歳の女兒が花桶をかついで神輿の渡御の供奉をする花桶かつぎの様子。龍樹寺。寒川

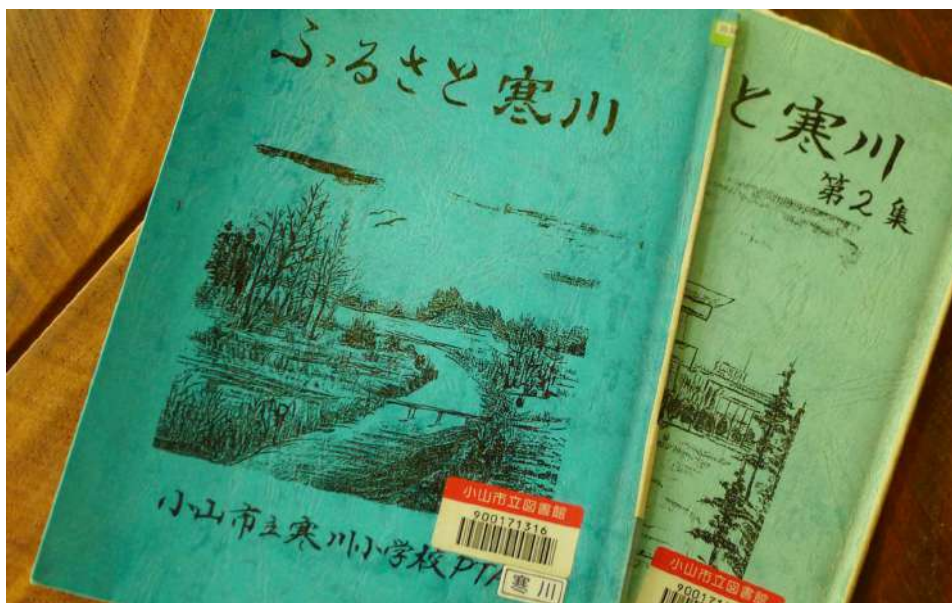
「花桶かつぎ 2018.1.28」

胸形神社に合祀された「天満宮のお祭りとして、古くから伝承されている花桶かつぎがあります」。「学問の神ということで、花桶かつぎを図案化した絵馬が、入学試験の前に (中略) 天満宮の絵馬かけに」

出典: 青木知義「花桶かつぎ (寒川天満宮と花桶かつぎ)」『ふるさと寒川』小山市立寒川小学校PTA著・発行、1988年、36-37頁

図 34 地区の7歳の女兒が花桶をかついで神輿の渡御の供奉をする花桶かつぎ。龍樹寺。

出典 | 青木知義「花桶かつぎ (寒川天満宮と花桶かつぎ)」『ふるさと寒川』小山市立寒川小学校 PTA、1988 年、36-37 頁



出典: 小山市立寒川小学校PTA著・発行『ふるさと寒川』1988年、同『ふるさと寒川 第2集』1991年

寒川小学校PTA制作の2編の地誌は、重要です。

図 35 『ふるさと寒川』(左) と『ふるさと寒川 第2集』(右)。

「研究 PTA の指定を受けたことを契機に、寒川を見つめ直そうと」。「通学路の端や畑の一角に先人の偉業がひっそりと残され (中略) この冊子が多くのことを語りかけることを期待します」。

出典 | 青木徳久「発刊によせて」『ふるさと寒川』小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1988 年、1 頁

5 景観から読みとれるその他のこと



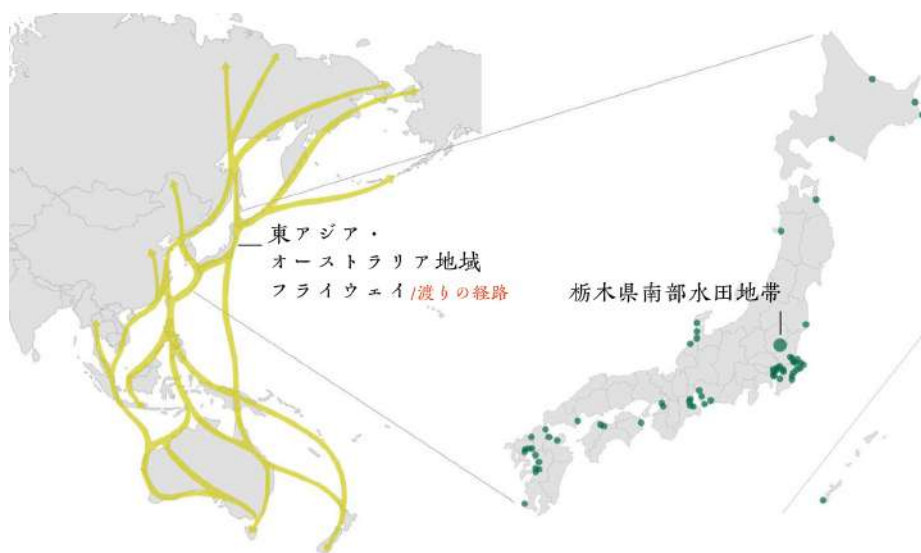
寒川小学校「田んぼの学校」のビオトープ(観察池)と田んぼ。中里。2024/05/20

「20年前にやはり実行委員の皆様。地域の皆様の
手で作られたビオトープですが、近年は (後略)」
「そんな中、(中略) ビオトープが生まれ変わりました」
「この先20年、30年と受け継がれていく (中略) と確信」

出典: 寒川小学校編・発行「寒川小だより 伸樹」861号、2022年3月24日、1頁

図 36 寒川小学校「田んぼの学校」のビオトープ(観察池)と田んぼ。中里。2024/05/20。

出典 | 寒川小学校編・発行「寒川小だより 伸樹」861号、2022年3月24日、1頁



東アジア・オーストラリア地域フライウェイの略図

WWFジャパン「日本のシギ・チドリ類重要渡来地」(68地点)

シギ・チドリ類など渡り性の水鳥は、彼らが休息し
餌を採る湿地を結ぶ経路を毎年移動しています。

Source: David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110. / WWF ジャパン <https://www.wwf.jp/actions/fb/3458.html> (2024-08-19 参照)

図 37 東アジア・オーストラリア地域の渡り鳥の移動において、当地区も休息と採餌の場に。

参照 | David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井(生井地区)。2021/06/23

小山市では、湿地を通年確保して水鳥の渡りを支えるため、冬も田に水を張るふゆみずたんぼを9ヶ所、面積約7.9 haで協議会会員9名が、

出典: 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコの取組について <https://x.gd/BbL1r> (2024-08-21 参照)

図 38 ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井(生井地区)。2021/06/23。

出典 | 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコの取組について <https://x.gd/BbL1r>



なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清(山鳥舎)撮影

麦の収穫後に水を張るなどするなつみずたんぼを計204筆、面積約50.9 haで49名の生産者がそれぞれ実施しています。

出典: 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0> (2024-08-21 参照)

図 39 なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清(山鳥舎)撮影。

出典 | 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0>

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



寒川地区調査地点。2024/06/08

鹿沼自然観察会の鈴木由清氏による2015-2023年のシギ・チドリ類夏期調査で、寒川地区では24種が確認。思川低地に位置する市内5地区で最多。

出典：鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024年、資料編3頁

図 40 寒川地区調査地点。2024/06/08。

出典 | 鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年、資料編 3 頁



タシギ。豊田地区。2022/09/07 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

タシギは、当地区で比較的よく見られる鳥類の一つ

図 41 タシギ。豊田地区。2022/09/07 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影。

タシギは当地区に、アジア大陸北部から越冬のための本州中部以南~東南アジアへの渡りの途中に飛来。

出典 | 鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年、資料編 3 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



押切・中里。1949/08/25

同左。2021/05/06。出典：国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

「低地の原形は圃場整備のためほとんど残っていないが、(中略)水田よりやや高位の微高地が」。その中で、農地の扱いの工夫などにより、水鳥が。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、72頁

図 42 押切・中里。1949/08/25 (左) 。2021/05/06 (右) 。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://mapapps.gsi.go.jp>

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、72頁



水田。松沼 (豊田地区)。2024/05/10

ムナグロ。間々田地区。2024/05/07。鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

鳥たちは、たとえばムナグロならば、耕起中の田と水を張りイネを植えた田を行き来するなど、農作業の過程でできる環境を選んで使っているそうです※。

※ 鹿沼自然観察会の鈴木由清氏より、2024年5月10に現地で伺う

図 43 写真は、耕起中の田 (左) とムナグロ (右)。

文中の※印の内容は、鹿沼自然観察会の鈴木由清氏より、2024年5月10に現地で説明を受けた。

II 踏査および文献調査による報告



小山市には写真のノスリを含む猛禽類も複数種が生息・生育しています。2021/03/16 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影 ※矢張り上伊豆野での撮影例を紹介

人間が必要とする自然の恵みは、生態系の中で生物がそれぞれの役割を果たすことで得られます。小山市の農業は、食料生産と共にそれも支えています。その価値と可能性の確認から、次へ。

参照: 風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス: 概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015年、3-23頁

図 44 小山市には写真のノスリを含む猛禽類も複数種が生息・生育する。

参照 | 風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス: 概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015年、3-23頁



その「次」は、
案外かつての
地区の姿を
手本にするのが
よいかもしれません。

出典: 青木繁男他(取材)「迫間田の坪と屋号」
『ふるさと寒川 第2集』小山市立寒川小学校PTA
著・発行、1991年、38-39頁

図 45 屋号を橙色の文字で示した。屋号は、当時または以前の職業や位置を表す。

参照 | 青木繁男他(取材)「迫間田の坪と屋号」『ふるさと寒川 第2集』小山市立寒川小学校 PTA、1991年、38-39頁

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

寒川地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、寒川地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、寒川地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和6年3月から7月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

①座談会形式のグループインタビュー

②自治会加入全世帯を対象としたアンケート
自治会への説明や広報周知は下記の通り。

- ・4月15日：自治会長会議の後に時間をいただき説明会を実施（寒川公民館にて）
- ・3月および4月に田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの広報周知を回覧などを通して行った。

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。スケジュール的に一部のインタビューがアンケート作成には反映されない場合もあり、自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

(2) 実施時期と対象者について

次の3つのグループで実施した。各回には、地区ビジョン策定チームの職員、市民委員も同席した。

①農業従事者の皆様：3月18日

新年度4月に入ると田植えの準備などで農繁期に入ることから3月のうちに設定した。農業委員、農地利用最適化推進委員、法人経営の方、個人事業者の方など計6名の方に参加していただいた。

②子育て世代の皆様：5月14日

寒川地区子ども会育成会連絡協議会より6名の方々にご参加いただいた。

③自治会長の皆様：5月16日

全自治会長5名の方にご参加いただいた。

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

①自己紹介として～寒川地区とのご縁、仕事や地域での活動、生活圏について

②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと

③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事

④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの

⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査

実施方法 1

- ・ 6 月初旬配布：広報配布時に公民館より各世帯に他の配布物と同時に配布。
- ・ 6 月 28 日を締切とし、自治会のご協力で回収 97 通（母数 423：回収率：22.9%）

実施方法 2

- ・ 上記による回答数が少なかったため締め切りを延長し、全世帯へ依頼書を郵送、回収 14 通（母数 512：回収率 2.7%）。

実施方法 3

- ・ 紙の調査票の郵送と並行して、インターネットで回答をいただけるように、実施方法 1 及び 2 の依頼書に、グーグルフォームの二次元コードを記載した。
- ・ 1 及び 2 の期間で 60 名の回答があった

回答数

- ・ 上記合計 171 名の回答により集計を行った。集計結果を、「小山市寒川地区アンケート調査集計結果報告書」にまとめ別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の 3 種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

①書き起こしデータの作成

②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの

③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料（アンケート調査集計結果報告書）に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用している。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

この章ではグループインタビューで行った聞き取りの成果を、開催順に掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 農業従事者の方々

1：参加の方々の営農状況や地域との関わり

2：寒川地区の農業の現状

- ・採算が取れない厳しい現状
- ・補助金の申請について
- ・他所からの新規就農者の大変さ、親元就農のありがたさ
- ・耕作放棄地
- ・大規模集積化、設備と経費
- ・井戸水
- ・都市部との関わり

3：地区ビジョン策定の進め方について

4：未来に残していきたいこと、
未来への展望

2 | 子育て世代の方々

1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏、暮らしてみても感想など

- ・他所から移り住んだ方の感想

2：子どもたちの日常

- ・地区の生き物

3：寒川地区での困りごと

- ・学童や習い事
- ・公共交通の不便さ
- ・水害と避難経路の問題について

- ・上下水道の不備について

- ・生き物調査とホタル

4：寒川地区で守りたいもの、未来への展望

- ・地区ぐるみの祭りや催事
- ・子育て世代が寒川に増えてほしい

3 | 自治会リーダーの方々

1：参加者の方々の地区との関わり

2：お囃子の活動と継承

3：子ども時代からの地区の変化

- ・巴波川
- ・世帯の形態の変化と空き家の増加
- ・交通量
- ・戦時中の寒川地区

4：寒川地区の困りごと

- ・水害時の避難用舟
- ・避難経路と避難場所の問題
- ・上下水道
- ・地域コミュニティ

5：寒川地区の未来ビジョン

- ・未来に残していきたいもの
- ・30年後の土台づくりと喫緊の課題

1 | 農業従事者の方々

参加者：農業委員、農地利用最適化推進委員、

法人経営の方、個人事業者の方など 計6名

実施：2024年3月18日 18時～19時30分

場所：寒川公民館

1：参加の方々の営農状況や地域との関わり

寒川

◎寒川に生まれ育って専業でやってきた。土地利用型で、米、麦、大豆が中心で、露地野菜もやっている。

◎昔はここも土地改良する前は本当に細かい田んぼで、ちょっと複雑な地形だったが、耕地整理、土地改良が終わり、もう50年ちょっとたつが、立派な田んぼになり、皆さんが本当に大規模経営できる農業になってきている。

◎その中で、祭りであったり、学校の行事であったり、そういうものに関わりながら、皆さん、和気あいあいとやってきている。少子高齢化で、本当に子どもが少なくなってきた、祭り自体も、寒川で言えば花桶かつぎという祭り、そういうのもだんだんとできるのかなという感じになってきた。今年も担ぐ人がいない。それが、これから先、5年、10年、どうなるかなという心配がある。これから本当に若い人に、この寒川を背負ってもらって、自分も頑張ってやっていきたい。

押切

◎押切の一番西側で、永野川の川っぶちに住んでいる。去年の12月まで会社勤めをしていて、長男なので家も継がなくてはならず、兼業で米作りをやっていた。田んぼなどはいくらもやっていなくて、1町くらい。

◎本音で言えば、たくさん田んぼをやったり畑をやったりして、農業に関わりたかったが、先祖代々持っている田畑が少なかったので兼業でやっ

てきた。寒川地区がこれからどうなっていくか、30年後は自分はいないと思うが、方向性というか、それを見つけられたらいいと思う。

中里

◎中里で兼業農家の家に生まれて、18年間、東京の会社でサラリーマンやっていて、38か39になった頃、会社を辞めて就農した。米、麦、大豆を作っている。会社員も結構頑張ってたなと思って、次に何かやりたいと思ったときに、だからと言って何か起業するということではなく、仕事の中心が東京で、通勤していたが、その時間ももったいないしと見つめ直して、農業をやろうかなと、脱サラからの就農を決めた。思川西部土地改良区の中里地区の理事をやっているの、そういった観点から見た農業や土地、農地というものに関わりを持ってやっている。

鏡

◎東京の大学を出た後、地元の企業に一度就職して、40を機に就農した。米、麦、大豆、露地野菜に取り組んでいる。6年前に株式会社を設立、従業員とかはそんないないが、法人名義を作ってそこで取り組んでいるような形にしている。

◎地域との関わりというと、細かいのはいろいろ、就農してからいろいろな話が舞い込んできている。他には、子どもが小学校のときに寒川小学校のPTA会長を引き受けたり、現在だと美田中学校の授業運営委員とか、JAおやま美田支店事業運営委員とか、何かそういうのがちょこちょこ任されている。

中里

◎私も同じくUターン組。東京で就職して、28ぐらいのときに戻ってきて就農した。農業歴は17年くらいになる。祖父と父親が農業をやって、父親がイチゴ栽培をしていたので、自分もメインは、イチゴ。米はほぼ家族や親戚で食べるくらいなので、1町歩もないくらい。あまりは基本的に全部JAに出している。

◎他の人もそうだが、消防団や農協の青年部の部

長を経験してきている。自分は他に小山市のイチゴ部会の役員など。

◎イチゴは、3年前から「とちおとめ」と「とちあいか」を半々くらい作ってきたが、去年、全面切替で今は「とちあいか」だけ。酸味がなくて甘味が強い品種。収穫の時など忙しくて、近所の人7人くらい、パートできてもらっている。

迫間田

◎家が専業専業で、自分は申し訳ないですが13から（笑）農業やっている。

◎米、麦、大豆で、けっこう広く……。 （「寒川では米麦合わせて一番広くやっている」と同席者の紹介に） いえいえ、1町くらいということに。恥ずかしくて言えない。

2：寒川地区の農業の現状

採算が取れない厳しい現状

◎正直に言うと、この先、農家が息子さんたちに継がせるかと言うと、無理。今のご時世、物価がこれだけ上がって、肥料も値段が上がって、機械の値段もどんどん上がって、専業でやれって言ったって生きていけないから、子どもらにやれとは言えない。普通に就職したほうがいい。

◎この先、米や野菜の価格が、どれだけ上がるか下がるか分からない。国だって、どこまで保証してくれるかということも分からない。それを自分たちの子どもにやりなさいとは言えない。今、農業をやっている自分たちも、ピタピタのところでやっているわけだから……。

◎未来があるかと言ったら、日本の農家には未来は無い。

◎無いと思う。

◎正直なところ、国が本当もっと補填してくれないと、小山市だけでなく県もみんなが協力してくれないと。正直、小山市でなんとかということでは無い。

◎農業をやろうという子どもたちがいたら、国だ

の県だの市が、一生懸命、支援をやってあげないと、今後、若い人たちは農業なんかできない。

今、現状、自分たちもキツキツでやっている。

◎今、農業でもハイテクだ、ITだっていうけど、ついていけないから。何でもお金。みんな投資をしないとイケない。そのお金はどこから出るのという、親が出せないと子どもは出せない。すると、このご時世、もっと国から考えて、県からも市からも支援がないと、子どもらに農地を預け、田んぼやってくれとは言えるわけがない。行政の人には、そういうところから考えていってもらわないと。

◎まちづくりでも同じ。若い世代に参加してもらうには、行政がどう支援するかを考えないと、田園環境を守るというのはできない、正直なところ。

◎そこから変えていかないと、未来は無い。

◎ITとか、ドローンとかの活用も農業では進んできた。若い子たちは、そういう農業だったらやりたいと思うかもしれない。でもそういう投資は、今の農家の親には無理。

◎やはり親は、正直、子どもたちに就職してくれ。もう農家はつがなくていいよ、と。そういうことになってしまう。そもそも未来を考えると、原点がそこからの話だから。

◎うちのほうで寒川南集落営農組合がある。そこでここ3、4年のうちに、3人ぐらいやめていった。今の話のように、後継者が親父さんの農業を継がなくなっている。その時点で農家を離農してしまう。それはやはり、採算が取れないから。

◎だから、ちょっと意欲と希望を持っていて、なんというか、今日、参加してくれている若手や中堅みたいに、うまくハマった人は、ハマった人というのもおかしいが、そうなっている人はいいのだが、状況が中途半端な人などは、離農してしまう。そういう難しさがあると思う。

◎国とかは担い手に資金を出しますよと言うが、

正直、国だの県が言っているのは、書類上で落とすこともある。通らないときは通らない。

◎大規模でやっけていても法人でやっけていても、首一枚でつながっている。

◎飼料とか2、3倍に値上がりしているし、農業機械の修理代だって、もうメーカーさんの言い値。修理工場だって、オイル交換のオイルも値上がり。燃料も値上がり。それは補助があるが、それでは足りない。

◎だから、どうやってコストを下げようかと考えても、コストを下げたら下げたで、今度はものができない。収量も下がれば魅力も下がる、もっと取りたい。でもコストがかかる、肥料代がかかる。そこで何かを削らないといけないから大変になって、そういうこともあるから、首一枚でつながっている。

補助金の申請について

◎今、農業をやっている若い人に、補助をもっと出して欲しい。「ああ、補助があるなら、俺も頑張ってやっけていけるかな」という気力も出るはず。田んぼも面積を増やして、野菜も作ろうという意欲につながる。そして、小山の農業に魅力が出れば、子どもにも継がせたいという気持ちになるし、子どもだって見ていけば「父ちゃん頑張ってる、じゃあ俺も手伝おうかな」となる。それが次の若手にも繋がっていくレールができる。国とか県とかがどうのではなくて、小山市独自で考えていかないと、田園環境は守れないでしょう。

◎実際、イチゴ栽培でも資材の高騰は響いている。ハウスを購入するにしても、販売価格が上がらないので、単純に利益率が減る。自力ではどうにもならないところは、本当に何とかしてほしい。イチゴは市場の競りで価格が決まるし・・・。

◎米も価格は国に決められたもの。この値段でしか買い取れませんかと言われると、従うしかない。米価もだいぶ下がってしまった。これではやって

いけない。

◎補助もあるものはあるが、使いにくい。

◎新規就農者が1年間どこかで研修を受けるとして、その研修期間の給料の保証もない、自分で頑張ってくださいという仕組み。現実的に無理。

◎実際、10何年か前に、私が研修に入った時も、補助が出ても返済が前提で、ただ無利子と言うだけ。それも話を聞きに行ったら、1年間研修した後に outputs、と。私はたまたま家が農家だったので、家で普通に仕事をしていればそれでいいが、そうでない人は、どうすればいいんだと言うことになる。しかも、研修期間は他の仕事をしてはダメですって話になるから、非常に大変だし、補助が補助になっていない。

◎補助金の申請では、市の窓口ももう少しちゃんとしてくれないと困る。補助 outputs からどうですか？と言われて申請を出しても、何の連絡もない。この前の書類はどうなったの？と行くと「すみません、この書類はもう無効です」とか、そう言うことばかり。

◎説明もわかりにくいし、使いにくいし、もっと簡単にこういう書類とこれを出せば、一応通るようにはなりますよ」という説明とかがあるといいが、申請が通ったんだか通ってないんだかもわからない。こっちは切実な状況で、期待しているわけだから。

他所からの新規就農者の大変さ、

親元就農のありがたさ

(風景社より、市貝町の農業研修生を地域おこし協力隊で受け入れている話題提供)

◎市貝町の場合は、米だけではなくて野菜もいろいろ作っているから、年中、やることがある。こっちは、イチゴと米だと、作業がある時期が決まっているから、受け入れても数ヶ月は遊びになる。

◎野菜農家は1年中仕事があるが、米農家の仕事は3月から12月までとだいたい決まっているか

ら、1月2月3月は、正直なところ仕事がない。すると、やはりそういう新規就農希望者で研修に入っても辛いと思う。

◎うちの息子の場合は、農協へ勤めたが退職してから就農して、今は何をやるか模索中。私がやっている米麦、大豆などもやりながら、ブロッコリーやネギをやってきたり。朝起きて、さあ何やりましょうって、私たちの場合は、もう計画が立つ、明日はこれやって、1週間後には何をやって・・・と。まだ就農したばかりでは、それまでにはなっていない。

◎正直、1年目というのは初めはどうしていいかわからない。自分が17歳から本格的に始めたときは、まだその頃はそんなに本気っていうのはなくて、だんだんと面白みが出てくる。

◎確かにそう。自分も初めは手伝いの感覚だったが、やっていくうちに売り上げが上がってきたり、自分のやりたい栽培をするようになって、任されるようになると面白くなる。

◎面白くなる所まで、到達しなくちゃダメだな。

◎新規就農と言っても、他所から来て、頼る人がいないと1年ぐらいして「やはり辞めます」って帰る可能性もある。

◎ここはみんな、親元就農だ。就農したときは親がいて、親を手伝いながら覚えていき、だんだん面白くなってくる。

◎実際、親がやっていて、そこで研修のように修行してから独立していくのは、親の代からの地元でのつながりがあるから、信頼もしてくれて、やりやすい。田んぼを貸してくれたり・・・。祖父のおかげだ、もっと遡って先祖のおかげみたいな部分だって感じている。そういうのがあるからできた。できているっていう感じなんですけどね。

◎最低限の土地と機械がそれなりにあるから、最初に。

耕作放棄地

◎耕作放棄地で田んぼが草ぼうぼうになってしま

っているようなところは、農業委員さんに頑張ってもらっているなので、一応ない。

◎今はいいが、これからは分からない。

◎5年後、10年後はどうなっているかわからない。今、やっている自分たちも歳をとってくる。

◎寒川地区の場合は、地域計画の担い手の皆さんがちょうど40代、50代で、今、Uターンして就農して力をつけてきたときなので、それで耕作放棄地も少ない。もう耕作出来ない人の分を引き受けてくれている。そういう人がいなくなったら駄目だね。

大規模集積化、設備と経費

◎今、国から方針が出て小山市とかもやっている集積化だのなんなので、田んぼを集めて大きくするみたいな動きもあるが、デカくすればデカくするだけ、機械が必要だし高性能のものが必要になる。

◎田んぼが広くなると、これまでの機械では間に合わなくなるから、機械がどんどん増えるし、デカイのが欲しくなる。100馬力のその先、何千万だ。

◎そうだ、2000万の借金。

◎小さいトラクターで1時間も2時間もかけるんだったら、大きいのにして、極端に言えば30分でこなさないと、という話になる。

◎トラクターはアタッチメントもデカくなってくる。そうすると、200万が300万、400万となる。すると次は、コンバインだって、「4条を6条にします、一千何百万です」となる。米の売値は上がらないのに。今はやりのドローンなど、なんでも買わなくては農業できなくなっちゃう。

◎米、麦、大豆をやっていると、汎用できないから、それぞれの機械が必要になる。

◎離農する人が多いのも、確かに後継者がいないっていうのもあるが、機械が壊れて、買い替えられないから、そのタイミングで辞める、という人も多い。

◎だからやはり、先ほども言ったように、そういうところにも補助をもっと若い人に出してほしい。それは今からやる人たちにもちょっと楽で、機械を買うにもそれが使えれば、やはり楽しみができる。ああ、それを使えば、俺もあのぐらいのトラクターを買えるんだ。機械を買えるんだ、と。農家だって、もっと元気になるはず。今は、どん底だ。

◎就農して1年目はそう思わないが、2年目になって意欲も出てきたときに、あの人が使っている機械がいいなと思っても買えない現実がある。

◎乾燥設備にしても同じ。個人で乾燥施設を作るには億の金がないと。でも、大きくやっているなら、自分のところに乾燥の施設を作らないと、経費だけどんどん出ていく。

◎米の場合は農協に持っていくと経費負けする。自分のところで乾かせて経費を調整しないとやはり金にならない。

◎穀物1キロにつきいくらって経費かかってくる。

◎機械だって、何年もつという保証はできない。使うだけ使うほど壊れるのは早いから、するとやはり7年なら7年で減価償却終わるけど、7年の前に壊れると、取り替えないといけない。そうなるとまた経費がかかってどうしようと。やはり、小さい農家はもうやめようという結論になる。

◎だましましやっている兼業が多い。機械的には。

◎イチゴ農家さんだってそうだと思う。ハウスだって古くなってくると建て替えなくてはいけない。井戸だって、正直その井戸が駄目になれば掘らないといけない。

井戸水

◎土地改良区というのがここはあるから井戸が無いと井戸を掘ってもらうが、やはりそこはお金がかかる。億単位で。

◎井戸からポンプで組み上げるための電気代もす

ごくかかる。

◎みんなで割って、土地改良区に払う。

◎川からの用水もあり、寒川までとってあるが、中地区から引いているので、ここにくる前に向こうがたくさん使い、あまり恩恵は受けていない。

◎近くから水を取ってれば別だが。

◎井戸の水位も下がっている。

◎出が悪くなった。出ないけど、だましまし使って我慢している。

◎水量が少なくなって、多少知っている人同士なら、お互い気を使いながら水をとるが・・・。

◎そういうのをあまり気にしない人がいると、困ることも。

◎やはりここは知っている同士だから、「俺入れるから明日入れる？」とか話ができれば、けんかにもならない。「今日入れる？」「いや、明日入れる」「じゃ俺、先入れていい？」「いいよ」とか。こっちを使ってるなと思えば「使ってる？」「使ってない」「じゃあ井戸止めていい？」「いいよ」とかっていう話もできる。

◎潤沢にあるわけではないけれど、それなりには一応は助け合ってやっている。

都市部との関わり

◎街の人たちがこの寒川地区の農業にどういうふうに関わっていったらいいかと、先ほど話があったが、なかなか難しさがあると思う。

◎地元意識が強い人たちがいっぱいいるので。

◎なかなか難しいところもあるが、やはり街の人に分かってほしいことは、農家も大変だよっていうことも分かってもらわないと、これから生きる道で、もうちょっとこっちの農村部のことを気にしてほしいという希望はある。

◎例えば田園地帯に来たときに、ゴミを捨てないとか、ゴミ拾いなど清掃活動をしてくれるとか、それだけでも違う。

◎こっちでイベントをやっても、街の人は来ない。農業や農家のことへの理解が進むようなイベ

ント、実は農業はこれだけ楽しいんですよ、ということも伝えられるようなイベントなり、必要かと思う。

◎「俺、農業をやってみたいかな。勉強したいかな」という子も出てくるんじゃないかなという感じはある。

◎ただ、いいとこばかり見せるのではなく、つらい面、大変なことも見せない。そういうイベントができれば、街の人、若い人の考えも変わるかなという期待もある。

◎イベントで言えば、社会福祉協議会だとか振興協議会だとかがあるが、そういう組織のトップの人たちがどう考えているかが今分からない。この地区だけでは無いと思うが、昔のままの感覚で物事が進んでいるから、若い人が出てこないとか、行事をやっても新鮮みや楽しさが無いという状態が続いている。

3：地区ビジョン策定の進め方について

◎田園環境都市でまちづくりをやるとのことだが、こういうことをやりだしたのはいいが、どこに持っていくかが見えない。最終的にここに来ている若い人たちが先頭に立って、この寒川地区をどうしようかということが大事だと思う。今日の話も、どこまでまとめて市長に報告するか分からないが、会議をやってその報告書を作って、それで終わり？

（風景社：終わりではなく、今日の記録やアンケート結果をもとに寒川地区のこれからを、また地区の方のご意見も聞きながら、寒川地区の今後を考えていくことになる）

◎報告書を出して終わりではないということで、それでは、30年後と言われているが、5年後、10年先にはこうなるんだよということまで、考えていかないと。

◎それがないと、寒川に30年後はない。

◎しっかり計画ができないと、会議をやったって

絵に描いた餅だ。私から言えば。

◎だから、ここにいる数人が、寒川地区をまとめるんだという計画ができないとおかしいと思う。イベントの話が出たから言ってるんだけど。イベントもやはり若い人が頭になって音頭取ってもらわないと駄目かと思う。今の行政の制度で言えば、そういうところがない。例えば、各地区のいろんな委員も定年が決まっているものもあり、75くらいかと思うが、行政が決めている年齢の壁、ちょっと高過ぎるのでは無いか。私はもっともっと若い人にやらせるべきだと思う。若い人の意見を聞いてない感じがする。若い人がやらないというんだったら、それはしょうがないと思うが。根本からやはりそうやって変えていかないと駄目だと思う。

ここに来ている人たちが、こうやりたいんだ、ああやりたいんだって言ってる。ではどうすればできるか。極端に言えば制度を変えるしかない。

◎浅野市長が、思川の西側の今後をどう考えているかも聞きたい。押切は寒川地区の中で、唯一、排水機場を持っている。ちょっと土地が低いから、なかなか米づくりにしたって、生活すら不安定なところ。浅野市長は市長になってすぐ「押切って生活するのにちょっと厳しいよね。厳しいというのは水害だよ。輪中堤にしようとか、かさ上げしようとか、移転しようとか」と、そんな話をした。だから住民からも意見を出して、いろいろ進み始めて、押切の人たちは、みんな喜んでる。その後、この田園まちづくりはやはり、もう一つ、市長の声が聞こえないと思う。だから、この記録も報告書がまとまったら、それで、市長や市がどう考えていくのかを、知りたい。

◎まず、小山市が、この田園都市ということで、田園部の各地区、ここであれば寒川地区、生井地区とか中地区、この地区はどういうふうに持っていきたいという、原案みたいなものを出して、それで、地元の人が、それをもとに、いやそうじゃなくてこういうふうじゃないのっていう話し合い

をしていくなら分かるが、完全にぶん投げではないか。

◎まずは、地区にぶん投げでいいんじゃないかな。

◎俺らがまず話し合った結果をまとめて持っていったら「いやこれはちょっとできないですよ」とか言われたら、何だっていう話で。結局はこの根本的な話し合いの元がなんだか分からない。

◎市のほうで根本的なところでは「ビジョンはこうなんです。この地区はこういうふうに持っていきたいと思ってるんです。ここだったら米麦とかね、農道をきれいにしたりしたい」とか言ってくれて、いやそこはこうしてもらったほうが地元はいいんだよというのを話し合う方が良かったのではないか。

◎迫間田地区も水害が起きているから、そういうことも考えてもらわないと。ここで農業をやり続けると言っても、まず、リスクがある。

（風景社からビジョン策定のプロセスを説明）

◎今は意見の吸い上げ中ということ？

◎住民のアンケートだとか情報を吸い上げようとしているのは分かる。まずは、市がどう考えているかが発信されないというか、小山市の職員の声というかが聞こえてこない。だから市長は発信できないんじゃないかなとは逆に思ってしまう。

◎この事業だけではなくて、市役所のいろいろなアンケートで、3割超えたら返ってきたと満足している課もあると聞いたが、それ自体、職員の認識と地元とかの認識の差があり過ぎる現れだと思う。だから農政でいえば、集積化のアンケート。あれも3割か4割ぐらいのアンケート結果。

◎市の農政課は4割返ってきて満足していると言ってるけど。

◎地元の話し合いだと、4割ということは6割の人が返してないんだから、そっちのほうが重要じゃないのというのが地元の意見なのだが。

◎だからそういう、この認識の差を埋めていかないと、いくらこっちで発信して、アンケートとか

現地調査とか意見を吸い上げて報告されても、報告書を作って上げて、職員の人はそこまでちゃんと汲み取ってやろうという意識がなければなんの意味もない。

◎認識の差といえば、都市部と田園部でのどんな関係を築くかという大切なテーマにしても、これに対する気持ちの差があり過ぎる。寒川地区の若手は、街場へ出ている人が多いから、結局は、家に残っている年寄りの回答が（アンケート）多くなって、若い人の声が聞き取れない。

4：未来に残していきたいこと、未来への展望

◎今の寒川で未来に残したいものは、花桶かつぎぐらいしかない。

◎少子高齢化で子どもがいなくなってきたから、続けていくのも難しいと思うが。

◎寒川小は、何年かたつと1人も入らない学年が出てくる。

◎合併の検討も必要だと思うが。

◎寒川地区って、行政区でいうと難しい。中学校とかは美田に区分されているが、行政区だと間々田地区。

◎美田地区なのか間々田なのかが、中途半端な宙ぶらりんで。

◎自治会連合会とか消防団とか、行政のものは、間々田。

◎だけど中学は美田地区。

◎だから、今度、乙女が乙女小と網戸小で合併になって、小中一貫とかになるというのに、寒川から乙女中に行っている人もいるが、寒川は省かれてる。

◎というところが、ある意味でいいところかもしれない。

◎どちらにも縛られていないというのが、自由で。

◎いいところはさっき言った花桶かつぎぐらいかな。

- ◎あと古墳群も大切。毘沙門山古墳など。
- ◎それから、地区が狭いので、人の結束は強いほうではあると思う。
- ◎ずいぶん、なくなった場面もあるし、全部が全部というわけじゃないが、まだ、困ったときは助け合っている人たちはいっぱいいるし、結束は強いと思う。
- ◎コロナで集まりが減ったから、そのへんが希薄になってきているが、また何かしら集まりが増えれば良い方に行くと思う。
- ◎小学校じゃないが、人数が少ないなりのメリット。
- ◎少ないからいいところもある。
- ◎小学校時代に、1年から6年までが仲いいというものもあるから、その繋がりや、就農しても助け合えるいい関係ができています。
- ◎学校は、人数が少ないからの心配というの、親にはあるが。
- ◎少ないからいいこともある。
- ◎農業だってそうだ。困ったときは助けあったりできるから。
- ◎卒業した後も、就職就農してから顔を合わせても「ああ」という感じで、すぐに打ち解ける。
- ◎つながりは、消防とかでも続いていくし。
- ◎本当は寒川地区で何か核になるものがあればいいと思う。
- ◎生井地区だと渡良瀬遊水地があって、そこにコウノトリがいて・・・。
- ◎寒川は、決壊公園か。
- ◎何かそういう核があって、その核を何かの集まりで広げてやっていけると確かにいい。
- ◎お祭りでも何でもいいと思う。
- ◎きっかけが作れると良い
- ◎何かの、法人でも何でも構わないが、そういう組織もあるといいなと思う。
- ◎市のほうでも、本気になって考えていただきたい。
- ◎だからその、そういうイベントというか、何に

- しても、やっぱり、若い人の意見が大切。高齢者じゃない。若い人が自然とできるような方向、形を持っていてもらいたいと常々思っている。
- ◎あとは、やはり、寒川小をこれからどうしていくのか・・・。
- ◎スクールバスを走らせて、街中からでも、農村地帯の小学校に来たいという人を拾ってくれば、人数は増えると思う。
- ◎親の意識としても、何百人という学校じゃなくて、田舎の小規模校に通わせたいという親もいるかもしれない。
- ◎下生井が確かそんなようなことをしてる、特認校で。
- ◎あれはいいが親が送り迎えしなきゃいけない。
- ◎送迎の予算は出せないって、教育委員会が。
- ◎それって順当に意見を聞いているのかは疑問。
- ◎民間の幼稚園だって園バスを走らせているのに、民間がやれて市がやれない？
- ◎寒川小は小山市で唯一敷地内に田んぼがある学校なので、そこも大切なことだ。
- ◎ほかの小学校が、田んぼの学校と言っても、敷地の外の人の田んぼを借りているが、寒川小だけ学校の中に田んぼを持っている。
- ◎寒川小の田んぼの学校はもう20年超えているし、ビオトープも作られている。

付記：同席しての感想コメント

ビジョン委員・他地区農業従事者のAさん

ビジョンづくりの取り組みに、農業の人がもっと関わってほしいと、今日は改めて思った。街場の人の感覚は、農業やっている人と、全然違う。やはり、農業者がはっきり言っていないと、分からない。それは、つくづく思うし、会議など、農業者を増やしてほしいというのは、市にもずっと言っている。世代的には若い世代が多いので、本当にどんどん行って出て来てもらいたいというのが正直なところ。他の人が地域のことを決めても

駄目なんだ。他の人は何もしてくれないから、やはり自分たちで何かやっていかないと。

ビジョン委員・大学生のBさん

ずっと話を聞いていて、皆さんのガッツが頼もしく思えた。皆さんの世代にめっちゃ頑張ってもらえれば、僕も安心して寒川で継いでいけると思いました。

2 | 子育て世代の方々

参加者：寒川地区子ども会育成会連絡協議会より6名

実施：2024年5月14日 18時30分～20時

場所：寒川公民館

1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏、暮らしてみてもの感想など

◎寒川で生まれ育った方が2名、結婚を機に他県から夫の地元の寒川に移り住んだ方が2名、結婚を機に、栃木県内や小山市の他地区から移り住んだ方が2名。

◎親世帯とは別に住んでいる方のほか、同居が1名、敷地内に別の建物で住んでいる方が1名。

◎全員が仕事を持ち、職場の関係などでそれぞれの生活圏がある。買い物では、大平、野木、間々田。病院は、間々田、大平、その他、車で2,30分かかるクリニックなどへ。

他所から移り住んだ方の感想

◎田舎育ちだったので、田舎には全然抵抗はなかった。ペーパードライバーだったので、まず田んぼの道を夫の車を借りてずっと練習してなんとか1人で運転できるように。最初は、同じ敷地内に住む夫の実家との距離の取り方など悩んだ時期もあったが、今は落ち着いて暮らしやすいと思う。ただ、車があればの話。ある程度行ったらいろいろなお店があったり、小山の50号沿いへ行ったらお店も多くて、そういう面ではすごくいいなと思う。田舎の風景も良くて、子どもを育てるにはいいところだと思う。

◎夫の実家がある地元に来たので、やはり最初は、夫の両親とどう距離を取っていいかは悩んだ。自分たちがやってきた生活ではないもう一つの生活を、どう尊重して、どう譲って、どう主張して・・・そのさじ加減が難しいと感じていた。

◎全く私の知り合いがいない土地に来たので、不安しかななくて、入学の時は、子どももそうですけど、私もすごく緊張していたのを思い出した。
◎うちは結婚するときに、同居というか地元に戻ってくるというのは言っていたので、いずれはという覚悟はあった。子どもが2人生まれてからの移住だったが、寒川公民館でやっていた「子育てひろば」に参加するようになって、子どもの同級生もいて、家も近かったり幼稚園が同じだったりで親しくなった。それがなかったらお母さんたちとのつながりがなかなか持てなかったのも、そこの子育てひろばにはすごく助けられた。担当していた方もすごくいい方だったので、そこからずっと下の子もお世話になったし。その方が異動するまでは結構お世話になっていたのも、すごくありがたかった。

◎間々田あたりに住んでいる方から聞く話では、家と家が近いところに住んでいると、子どもがサッカーボールで遊んでいると、ボールがどこに飛んでくるかわからないと苦情を言う方もいらっしゃるみたい。他にも魚を焼いていたら、臭いとか・・・でも、寒川は、そんなこともなく、子どもは割とのびのびと育っていると思う。そういう面はいいかなと思いました。ただ、川が下だから、洪水とかになったときが一番困る。どこに逃げたらいいか・・・不安がある。

2：子どもたちの日常

◎子どもたちは全員、徒歩で通学している。登下校の時間帯は、お年寄りほとんど外に出ていない。畑仕事はしているかもしれないが、登下校する道すがらにはいない。保護者が登下校の見守りで一緒に歩いている。

◎自分のうちに子どもがいる人で、犬の散歩しながら一緒に歩いてくれるおばあちゃんがいた。

◎うちは登下校の時に、2軒のお宅の庭を通らせてもらっている。人の家の庭の端っこが用水路の

ようなものがあって、それに沿って歩くと、人の家の庭を通ることになる。昔は道に出て遠回りしていたこともあったが、人数も少なくなってきたので。夫の世代はそこを通らせてもらっていたということで、また、2軒のお宅のお庭をお借りして、登下校している。

◎車が通る道を歩くより安心。たぶん近所の方たちも、道に出ないで普通に人の家の庭を通して、あちこちに行っている。

◎歩いていたら、知らない間に人の家の庭だったということもある。みんな敷地が広いから。

◎昔は一人になっても帰り道とかも普通に歩いて帰っていた。

◎私たちが子どもの頃は、学童もなかった。いつも家におじいちゃん、おばあちゃんがいたから大丈夫だった。

◎放課後は、ここの公民館に自転車に来て、それは同じ学年関係なく、下だったり上だったり、ごちゃごちゃで遊んでいる。

◎宿題とちょっとしたおやつを持たせて、行ったらっしゃいという感じで。

◎自転車は、3、4年から地区内はOKで、1、2年は字の中だけと言う決まりがある。

◎だから、うちは、字外になるので公民館に遊びに来られるのも3年生から。

◎公民館では何しているんだろう（笑）。

公民館長よりコメント：大きな声を上げて走り回ったり。図書室へ入って何かやっていたり、別に本を読んでいるかどうか分からないが。あとは自動販売機でちょっと買ったりとか。ボールを投げている子もいますし、敷地内のグラウンドで遊んだりしていることもあるし、割とよく大声上げて話していたり、走ったり、元気に遊んでいる。

◎シール交換もやっているようだ。百均とかで買ったシールをかき集めて、交換する。

◎10年ぐらい前の子どもたちは、ザリガニ釣りがブームだった。

◎用水路で。網、割り箸と、さきいか。そう言う

もので釣っていた。

◎今の子たちも、まだやっている。

◎用水路で、男の子が遊んでいるのに混じって女の子も。

（風景社：他の地区のグループインタビューでは、高齢者の方達が子どもの頃は、でかいミミズを探して、それを餌に釣っていたと言う話があった）

◎今の子は、ミミズなんて考えていないと思う。

◎たぶん触れない。

◎コンビニでさきいかを買って、贅沢な釣りになっている。

地区の生き物

◎夏休みに、子ども会ごとに生き物調査をやるが、去年初めて参加して、こんな大きいフナを取ったり、それでも子どもたちも結構真剣に一緒に取って、かなり楽しそうにしていた。その後、公民館に行って、子どもたちが今日見た生き物とかを、生物の先生も来てくれていて、その先生に聞いて、こういうのがいるというのを絵で描いて、模造紙に貼って、まとめていく作業もやっている。結構、生き物はいるようだ。

◎ホタルは、昔も今も、見たことがないかも。

◎中地区はホタルいるみたいだけど。

3：寒川地区での困りごと

学童や習い事

◎小学校に上がったからの学童に困っている。そういう人はとても多い。こども園でも学童は利用できるが夏休み冬休みの時だけ。普段は、寒川小からこども園まで徒歩で移動しないとイケない。まだ小1で、1人で歩くのは無理で、距離もあるし夏は暑すぎて無理。それで断念している保護者さんがほとんど。では共働きでどうすればいいかというと、他のお母さんたちの話では、おじいちゃんとおばあちゃんに頼むしかないとのこと。私

も仕事がないときは、子どもがほかのお友達を連れてきて、遊ぶのとかも見ていられるが、それを毎日というのはきつい。どこかい学童がないかと探しているが、どこも送迎がないので、子どもが歩いていくことが前提になり、難しい。

◎だから今のところは大型の休みしか預けられていなくて、それ以外はどうにか自分とおばあちゃんとで対応している。自分がどうしても忙しいときは「おばあちゃん、今日お願いします」と、なんとか今のところはやっているが、2年目ともなると結構しんどい。

◎私も低学年のころは、学童がないから困っていた。幼稚園で通っていたところが、預かってはくれるが送迎はなく、自力で歩いて行ける距離でもない。夏休みとかだけ預けて、他は、仕事の時間も考えて、下校の時間も考えて、やりくりしていた。今は大きくなってきたので、留守番とかもしてくれるが、何かあったときに困る。大きい学校なら、学校に必ず学童があるから、いいなと何回も思った。

◎学童もそうだが、ここに住んでいると習い事に絶対親の送迎が必要。習わせてあげたいけど、自転車では行かれなくて、ましてや徒歩では無理。結局、親の送迎ができる時間帯で送迎をするか、習い事を諦めるかという選択になる。

◎寒川には全くなくて、中地区に公文があるくらい。

◎遠くでもとりあえず送迎はした。結城まで行っていたことがある。

◎宇都宮まで片道1時間かけて通ったことも。

◎帰ってくると9時とかになる。さすがに小学校1年生で9時はかわいそうだと思って辞めた。

公共交通の不便さ

◎ここはバスも止まらない。通過して行ってしまう。

◎おーバス、かなり昔はあったらしいけど、使う人がいないからなくなったと聞いている。

◎一番近くて、間々田のしらさぎ館。しらさぎ館まで子どもが自転車で行くか、お年寄りが歩いていくかという、そちらも行けない。

◎おじいちゃんも 90 になったから、免許を返納した。まだ運転をしているおばあちゃんがないと足がないから困っている。自分たちがその年になったときに、免許返納してでは交通手段どうするのとなったら、今の状況では、すごく困ると思う、今後。

◎おーバスがなくなるタイミングで、デマンド号とかなにか、予約制のタクシーという話もたぶんあった。

◎年寄りは 120 円か何かでタクシーみたいので乗っていけるとか言われていた。うちのひいばあとかは、光南病院とか行くのに最初は利用していたけれど、タクシーがぐるぐる回ってしまって、なかなかうちまでたどり着かなくて、もうやめてしまった、嫌だって言って。

◎ここは最寄り駅が遠いので、高校生になってからもすごく不便。

◎高校はどこに行くんだろうとか、どこへ行っても送迎しなければいけないとか、今から心配。

◎栃木の高校へ行くのでも、栃木の高校はだいたい栃木駅を通り越していく。なので、ここから最寄り駅は間々田になるが、間々田に出て小山に回って栃木に出るぐらいだったら、真っすぐ自転車で行ってしまったほうが早くて、この辺の人はみんな栃木近辺の高校は全部自転車で行く。

◎1 時間はかかるが、仕方ないので、女子も自転車で走っている。

◎女子は送迎も多いかもしれない。

◎それで結局、毎朝、親の送迎が必要。

◎栃木のバスが回っているバス停まで送って行って、そこからはバスで行くというのも聞いたことはあるが、結局、バス停までは送っていかないといけない。うちも今、2 人いるが、最寄り駅は間々田で、大平下駅まで自転車で 11 キロの道を 40 分かけて行っている。間々田に出ても、結

局、時間的にはたぶん間々田へ出るほうが遅くなってしまうので。だったら自転車で行ってもらったほうが良い。本当はたぶん岩舟が一番、駅的には近いかもしれないが、行き方的には大平下のほうの道が危なくないので、そちらに向かっている。

◎道路状況も良くないので心配。この辺はたぶん土手の上を走っていくが、土手だと虫がすごいので夏は通れない。

◎街灯はないし、歩道が片方しかないので、結局、歩道のあるほうに渡る。どうやって行っているのか分からないけど渡って街中を通り、田んぼ道に入り、田んぼ道をひたすら駅方面に行くと思う。

水害と避難経路の問題について

◎5 年か 6 年前、大水が出ましたね。

◎結構ギリギリになって、サイレンが鳴った時は、もう怖くてどうしようかと言って、坂の上に行ったが、戻ってきたら車が浮いていたので、もう戻れないとなって、どうしようか・・・と、結局、野木の親戚の家を頼って泊めてもらった。避難の途中で車がプカプカ浮いていたので、無理だと言って網戸大橋から下りて、その次の小さい橋を越えようとしたらもう 1 台浮いていたので、無理だ、帰れないっという状況だった。

◎すぐに 2 階に避難したことがある。10 年前と 5 年前と 2 回。

◎10 年前の時は、私もここに来て初めての夏で、どうしていいか分からなかった。おじいちゃんが「ここまで来たらダメだから、まず避難しよう」と。たぶん経験値で言っていると思った。夜中だったが、子どもを連れて、とりあえずは食料を持って、どこに逃げるのかと聞いたら、寒川小に行けと言われた。寒川小は、よく考えたら川の隣にあり、寒川小の体育館は水浸しになるのではないかと心配だったが「とりあえず寒川小に行きな」と言われ、おじいちゃんとおばあちゃんはそ

れぞれの車で、私は自分の車で、そのとき夫は単身赴任だったので・・・寒川小まで来たら、本当は避難所は美田中だと言われてたが、美田中はもういっぱいだといわれて、行くに行けなかった。寒川小が開けてくれると言ってくださったので、そのときは寒川小に避難。川の水位もギリギリで大丈夫だった。

◎5年前のほうが怖かった。思川が本当やばい状況になっていて。あとひと雨降ったら、我が家は駄目だなという感じだった。

◎思川はどこかで越水していた。

◎栃木のほうで越えちゃっていた。

◎だからこっちは大丈夫だったのだと思う。

◎常に洪水の不安がある。夏が来る、雨が降る・・・というのは。

◎だから、家も建てられないかな。もし洪水きたらと考えると、やはり土地が高い方に引っ越してから家を建てた方がいいのかなという迷いや不安が常にある。

◎とにかく、避難経路がわからないことが問題。わからないというのは、道路が水没するから。どの道を通して、避難場所に行けというの

か・・・。10年前は、主人が消防団だったので、夜中に「もう避難所に行った方がいい」と言われて、子ども2人連れて車で出たが、セブンイレブンのほうに行くと、その先の道路は水没していて、別の道に行くと、50号の手前でやはり結構水が溢れていて、私もそこをなんとか突破してみたが、コンクリートのブロックみたいなものが浮いていて、車がボコボコになって、という経験がある。いったいどの道を通ったら水に埋まらずに高い位置に行けるかは、いまだに分からない。

◎低いところもあると、間違っ入ってっちゃうかもしれない恐怖がある。

◎実家が野木で、ちょっと高台になっているので、50号を通して4号線に行った。私が行った時間はまだ大丈夫だったが、その後50号も水で埋まったので、もうちょっと遅い時間だったらた

ぶん一緒に水没していた。無事に実家についてほっとした。

上下水道の不備について

◎水道が、ほかの方が住んでいらっしゃるころはどういう状態か分からないが、鏡地区の私の家は、共同の水道のポンプが公民館の近くにあつて、それが60年もので古くて、しょっちゅう壊れる。なんの予告もなく断水になって、朝、皿を洗っていたら断水とか、トイレへ行っていたら断水で、プチパニックになる。「どういうこと？」とおばあちゃんとかおじいちゃんに聞くと、もう壊れているから、と。それを管理しているその地区の一般の人が順番に担当して、素人の人がやっていた、それがもう驚きだった。普通に役場というか、小山市の管轄だと思っていたから、全部この地区は地区に住んでいる人たちだけで水を管理して、賄っているということに、大丈夫なのかと強い不安がある。

◎カルキとかの薬品とかも自分たちで入れていると聞いて、それはやはり水質管理のプロがやったほうがいいのではないかと不安や不満が溢れ出てきて、こんなの、他の町では聞いたことがないと行って、夫をすごく困らせたことがある。

◎近所の他の人に聞いたら、みんなイチゴ農家さんだったり、田んぼの農家さんなので、自分たちの井戸があつて、井戸だから一回掘ってしまえば使い放題で、水道代もかからずにやっているという話を聞いた。農家で井戸を掘っている人は、全然困っていない。その差にもとても驚いた。

◎うちも農家だったので、井戸はあるにはあつたが、昔、埋めてしまっている。水質調査なりをもう一回して掘り直さないといけないといわれた。それに100万近くかかるとのことで、そんな大金、急には出せない。家族みんな急な断水にはとても困っている。子どもがいるし、お風呂も入れなくて、8時間、9時間、断水だったときもあつた。

◎地区の担当の人も素人だし責任があるわけではないから、一度、市役所の水道課に電話したこともあるが「うちではどうしようもないです」といわれて電話を切られた。「では、誰に言えばいい？」とパニックで。もうそのときは、夏場で暑かったから、お風呂へ行ったり、自分でできる対策はしたが、それがまた年に数回あるのですごく困っている。

◎どこの地区も 60 年くらい経った古いポンプだと思う。うちの地区でも直そうという話は出ているらしいが、お年寄りたちは皆、乗り気ではないらしくて、自分もそんな長くは生きないだろうし、今さら何千万かけて替えたってということで。子どもたちとかいる家はすごく困るのだが。それで結局、新しくするなら積立をしなければいけない、積立で 15 年から 20 年かかるという話も出て・・・、もうそのころには子どもたちは巣立っているし、自分たちで井戸を掘るしかないかなとか考えたり・・・答えが出ない。今すぐに何かしてほしい。

◎小山市民なのに小山市に相談してもなんともならないということにも、すごく困っている。水は、死活問題だし、地域だけで、しかも一般の素人が、どうすればいいのか？ 毎回断水になるたびにパニックになる。

◎水の管理がこんな状態では、新しい人が移り住んでくれることもない、難しいと思う。早急にどうにかしてほしいと思うが、どういう働きかけをしていったらいいか？ そのルートが分からない。

◎住んでいる地区では、まだ今のところ一度も断水は無いが、ただ、濁った水が出る時がある。洪水の後など、濁流が流れ込んできているのか。うちの地区では、業者さんが水質調査をしてくれるという話で、年間 30 万ぐらいかかる。自治会の戸数で割って負担している。戸数が減ってくると、きっと負担も大きくなるのかなとは思っている。

◎うちの場合は、白いタオルを何回か洗うと、近

所の人も言っていたが、黄色くなってしまう。そういう水で体に影響はないのか不安になる。子どもがいるから余計に安全面が気になる。なるべくスーパーとかのお水を買ってきて、お米研いだりはするようにしているが、毎日水を取りに行けないから、そこは目をつぶりながらやるしかない。

◎本当に地下水は大丈夫なのかなと不安だ。近所に人工透析とかしていらっしゃる方もちらほらいる、将来的には本当に子どもたちは大丈夫なのか。それを飲み続けて大丈夫なのかなという不安がある。

4：寒川地区で守りたいもの、未来への展望

地区ぐるみの祭りや催事

◎寒川は地域でのお祭りや昔からの風習など、子どもも楽しめるものが多いと思う。

◎地域ぐるみの祭りが多くて、その分ちょっと PTA とかやらなければいけないことも増えるが・・・。

◎どんど焼き、さくらまつり、公民館祭り。

◎寒川ウォーキング。学校主催じゃない、地域主催かな。

◎引っ越してきてから増えたものもある。前はほとんど焼きは無かった。さくらまつりは、決壊口祈念公園ができてから。

◎みんなで花見をして、各自治会で屋台を出して、綿あめとか焼きそばとか。

◎ステージも作って、子どもたちが出てダンス。

◎うずま会という名前のよさこいチームがある。小学校に通っている子たちのおばあちゃんたちが主で、みんなで衣装きて、よさこいを踊っている。

◎どんど焼きもそうだが、どこかの団体だけが主催というより、いろんな団体や人が協力してやっている。

◎胸形神社では相撲大会。寒川地区は 10 月 19

日に、子どもたちの相撲大会みたいなのがあって。ご褒美にお小遣いがもらえるから子どもたちがそれを目当てに参加する。楽しみにしている。本来は一応、寒川字内の子どもたちがメインだが、少子化に伴い寒川小学校もバックアップしてくれていて、その日は下校が早く、いろんな字の子が参加できる。

◎勝つと 300 円か 500 円、負けても 100 円もらえたりするので。

◎土俵の上で裸足でやっている。

◎男の子対女の子の組み合わせになるときもあって、意外と女子が強い。

◎お囃子も公民館で練習しているようだ。

◎規模は小さいかもしれないですけど、大人も子どもも一緒に。

◎寒川ウォーキング、さくらまつり、寒川小の運動会、公民館祭り・・・そんな時に披露する機会がある。

子育て世代が寒川に増えてほしい

◎子どもたちに将来は寒川で暮らしてほしいかというと、子どもの意思なので、あまり親の要望は言わないでおこうと思う。たぶん大学はどこか出ると思うので、そこから就職をするのを機に戻るか戻らないか、それはもう本人に任せたいと思っている。

◎将来、寒川に残るとして、仕事の選択肢は、まずは農家ということになるかもしれないが、農家もやはり大きくやっていなければ生活も難しいし。

◎他所から寒川に来たので、田園風景には、すごく癒やされている。それを守るためにも、後継者問題とか解決したいし、跡継ぎがいないのだったら外部から来てもらって、その時期だけ来てもらうとか、何かいろいろ対策をしないと、長続きはしない。

◎もちろん、田園風景は残しつつ、お店とかも近場に欲しいなという気持ちもあるので、必要なラ

イフラインのものをすぐに購入できる場合は近くに欲しい。

◎コンビニは 1 軒で、スーパーも無いから。

◎買い物が不便だと、移住者もこない。

◎小学校もなくなってしまう。今の 6 年生が一番多い。そこがいなくなったら全校でもう二十何人になってしまうんです。

◎少人数の良さもあると思うが、結局、新入児が 1 人しかいないとか 2 人しかいないとなってくると、その保護者の方が、入ってくるのにためらうみたい。

◎だったらほかのところへ行ってしまったほうが楽。少ない学校にわざわざ行くより。

◎全校生徒が少ないと、お母さんたちは何かしら役員をやる、その負担も増えるから。

◎来年なんか、役員では無い人がいないということになりそう。そうすると、負担はかなりあると思う。

◎役員をやっていると、子どもと一緒に行事とか、ウォークラリーとか一緒に歩けない。

◎子どもが小学校に通って今年で 12 年目、そのうちの 7 年間は、私も夫も何かしら役をやった。

◎今後はたぶん本当に毎年毎年、役員もやらなければいけないし、学年で 2 人しかいないところもあって、そうするとどちらかが学年委員を必ずやらなければいけない。もう 1 人はたぶん支部の役員になる・・・それが、ずっと毎年のことになってしまう。

◎子育て世代が寒川に増えてほしい。でも、今のままではそれは期待できない。これからは、母親が働いて家計も支えていく時代になっていくと思うが、母親が子どもを送迎をして、ごはんを作り・・・、全部ワンオペになってしまう怒涛の 3 時間がある。そこにサポートが必要。そうでないと子育て世帯も子どもも増えない。

◎子どもには習い事をさせてあげたい。母親として何かをやってあげたいと思うときに、バスがあるとか、近くにお店があるとか、そういうので助

けられる事は多いはず。そういう母親の大変さを助けてくれるものが、ここには何も無い。

◎将来、いったん外に出たとしても、子どもたちが戻ってきて、緑や田園が広がっている中で、子育てをして、そして「子育てしやすいな」と思える30年後だったら、私は娘に対しては「寒川に帰っておいで」と言える。（今の状況では言えない）

◎ここは新しい家を建てることも難しい地域。（市街化調整区域）

◎家を建てる時も、畑だったりしたから申請にすぐ時間がかかってしまった。

◎それで寒川ではなく、大平に家を建てたという近所の人がいる。

◎間々田に建てた知り合いもいる。

◎ここ以外に建てる方の話は結構聞く。

◎あとは廃墟というか、お年寄りが亡くなってしまっただけで誰も住んでいないところがかかなりあって。賛助会費集めに回っていても、大丈夫ここ？今にも崩れそうなんだけどという家が何軒かあったり。去年は賛助会費を集められたけれど、今年は8軒中2軒の家がもう亡くなって、誰もいなくなっていた。空き家はどんどん増えると思う。

◎そういう家の活用とか、せっかくだからそこをまた取り壊したり新しく建てるとか、そういうことをしたら若い世代も寒川に来やすいかなと思う。

3 | 自治会リーダーの方々

参加者：鏡、押切、中里、寒川、迫間田の自治会長、計5名

実施：2024年5月16日 18時～19時30分

場所：寒川公民館

1：参加者の方々の地区との関わり

迫間田

◎実家の田畑は2町くらいしかなく、米価も低いので年収が100万ほどにしかない。それでは家庭も持てないので、会社勤めをしていた。小山の第一工業団地、群馬県の太田市、野木の工業団地などで働いてきた。

◎自治会長は年齢の順にみんながやるような仕組みになっている。まず副会長をやって会長に上がる。1年の任期としているが、色々と事情があって、私は2年目をやっていて来年も続けないといけないかもしれない。

◎消防団でも、自分たちが若い頃は20歳から入って20年ぐらいやって辞められたが、今では28年もやっている人がいますよ。30年近く。後がないのでやめられない。

鏡

◎東黒田で生まれて結婚を機に寒川に来た。仕事は65歳まで会社員、定年になって現在はパートで行っている。地域の活動では、自治会と鏡の里の役員をしている。

◎普段の生活圏は、大平とか間々田。病院は、かかりつけが大谷地区にある。

中里

◎寒川で生まれて高校を卒業して外に出ていたが、家族の都合で戻り家に入った。60歳まで勤め、そこから仕事をもらって自営で10年間。3年前から息子に任せている。中里の消防団は、任期が6年で、昔は人がいたので、それで成り立っ

ていたが、そうも行かなくなり、自分は12年という倍の年数をやった。

◎普段の生活圏は、大平、小山で言えば立木、間々田あたり。かかりつけの病院は、手術をしたこともあって市民病院になる。

寒川

◎実家が農家なので、学校を出た後、イチゴを作っていたが、その後、勤めに出て警備業やその関連でビルのメンテナンスなどもやっていた。退職するときにお客さんから依頼されたこともあり自分で会社を立ち上げ、関東一円で客室清掃などの事業をしている。

◎実家は農家だが父親が早くに亡くなったこともあり、この地区では一番早く農地を売却した。当時はいろいろと周囲の批判もあったが、現状に至ってそれが合っていたと思う。

◎生活圏は地元寒川だが、かかっていた医者も亡くなり、買い物や病院は間々田や小山に行っている。

押切

◎就職先の関係で地元にいたりいなかったりしたが、若いころはお囃子とかにも参加していた。退職してからは、今は自発的に神社の掃除をしたり、山が好きなので、あちこちの山に登る時にゴミ袋を持参してゴミを拾ったりしている。

◎普段の生活圏はこのあたり（寒川）と、あとは買い物に栃木と大平。小山というところからは遠いが大平だと近い。

2：お囃子の活動と継承

◎地域の活動では、父と祖父がお囃子を教えていた関係で、自分も覚えた。笛以外はできるので、若い人たちに教え始めた。

◎自治会の人限定ではなく、どこに住んでいてもいいから、お囃子が好きな人、ということで声をかけていたら5人、6人が集まった。強制では続かない。7月から月に2、3回、寒川自治会館を

使わせてもらってやっている。ずっと続いてきたことを、若い人たちにつなげたいと思っている。中里地区の方でやはり指導してくれる方もいて、練習の時に来て、一緒に叩いてくれている。

◎お囃子が盛んだった頃は、各地区それぞれに全部お囃子があった。やはり各地区で叩き方が違う。打楽器だから、太鼓は誰がは叩いても音は出る。でもそれぞれでの違いがある。

◎寒川地区のお囃子は、隣の網戸から頼まれて、教えていた時期がある。網戸の人たちは、かなり上手になってハワイに招待されて行ったこともある。

◎鏡でも一時期までは盛んにやっていたが、今は、みんな高齢化で覚えている人がいなくなってしまった。

◎迫間田でもお囃子はあって、ただ、笛ができる人がいなくなってお囃子も廃れてしまった。やっぱりお囃子には笛、あの音がないとバランスが取れないが、笛が一番難しい。

◎小山市の無形文化財の指定や継承の仕事の中で、何とかバックアップが必要ではないか。

3：子ども時代からの地区の変化

巴波川

◎川が汚くなった。小さいころは川がどこへ行ってもきれいだった。下が見えて。小さいころ、川で泳いだりしたこともある。

◎子どもの頃は、胸形神社あたりから巴波川に飛び込めたから、水深も結構深かった。よく水浴びという水遊びに行っていた。

◎昔は深かった。なぜ今は浅くなったか分からないが、土砂の堆積だろうか。2メートルくらいか、深いところがあったり、でも水が綺麗で下まで見えたりした。

◎目をちゃんと開いて飛び込むなんてことをやっていた。あの頃は水着なんかあったかどうか、水

着なんか着けなかったか。

◎水着は無い。裸かパンツ一丁だ。

◎よく覚えてないが昭和四十年ごろか……。

◎上と下の温度差が結構あった。川底の下へ行くと冷たいから、よく考えると危なかった。

◎事故もなかった。

◎みんな不死身なんだ。

◎今のように、ゲームだの何だの他にあそびがないから、みんな川に集まっていた。

◎ガキ大将がいて、俺はナンバーズリーだった。

◎いろんな子どもが混じり合って外で遊んでいた。

世帯の形態の変化と空き家の増加

◎最近、若い人と親と同居している家が本当に少なくなった。

◎年寄りだけの世帯が多くて、子どもたちは、別に暮らししている。鏡地区での半分以上の世帯がそういう状況。

◎鏡に限らず、寒川地区ほとんどがそうだ。半分以上の世帯は……。

◎二世帯の家や、敷地のなかに子ども世帯の家を建てているところもあるにはあるが、とても少ない。

◎年代的に30年代の生まれの人は、そういうパターンはあると思うが、それ以降に生まれた人たちは、同居に対して女性の人が嫌がるように思う。だいたい生活できれば、別世帯を持ちたがる。

◎農家では収入がとても少なく、生活できない。最低でも10ヘクタールぐらいないとやりくりはつかない。農家を専業でやっている人や自営が何か商売をしている人は、経営上、親と近い方が良かったりする理由もあるので、敷地内の親子で住むケースもあると思う。サラリーマンとか、農家でも他に仕事があって農家は小さく兼業でやっている人などは、生活がしにくいので、この地区を出てしまっている。

◎生活スタイルも昔と今ではずいぶん違うから。

◎その一方で、空き家は増えている。

◎いろいろな理由があると思うが、空き家を壊すにしてもお金がかかるから、誰も住まなくなっても、そのままにしてある。

◎寒川地区は農業振興地域、市街化調整区域なので、宅地変更できないと、自由に家が建てられない。若い人は外に出て、高齢者だけが住んでいた家は、亡くなると空き家になる。

◎自分たちがまだ本当に小学校か中学生ぐらいのときは、どこの家に行っても、じいちゃん、ばあちゃんがいた。ところが今は、少しでも弱くなると介護施設へ入れられる。あのうちにじいちゃん、ばあちゃんいたけど、どこへいっちゃったんだ？と聞くと、介護施設。亡くなっても黙っているから分からない。昔だと自宅で葬式をやって、今ではそういうのをやらない。だから、ほんとにわからなくなっている。そして、いつの間にか、誰も住んでいない空き家が増える。

◎今はもう組内で手伝って家でお葬式をやるという事は全く無くなった。

◎だいたい葬儀屋さんにお任せで全部頼んで。

◎あとはもう体一つ行くだけ。そんな感じですかね。

◎ある意味、じいちゃん、ばあちゃんどこかなくなっちゃったという感じ。死んじゃったんだか、生きてるんだか分からない。聞いても言わない。こっちも聞く気もないし。

◎ということは俺らの世代もそうなっちゃうのか。

◎そうなっちゃう。いつのまにかどこかに。

◎どこかへ連れて行かれて。きっと。

◎簡単に言えば自分の家では死ねない。昔はみんな自分のうちで看取ったけど、今はそういうのができない。それも時代の変化だ。

交通量

◎昔がダンプカーが多かったが、今は、通勤の車

が多い。

◎ダンプカーは、道の駅から小山側に環状線なのか、道路ができてダンプカーの流れが変わった。

◎セブンイレブンの交差点、T字路。あの辺は朝になると車が県道に出るのに出られないくらい渋滞する。みんな通勤で使っていると思う。

戦時中の寒川地区

◎親父からは、年代的に、花桶かつぎの由来は聞いていなくて、聞いたのは戦争の話くらい。群馬県の太田市に中島飛行機の製作所があって軍用機を作っていた。米軍が太平洋からそこへ向かってくるときに、ちょうど寒川の上を通過して、下から見ると、B29のデカイのと、グラマンという小さいのが見えたそうだ。中島飛行機の工場まで行って爆撃して、帰るときに爆弾が余っていたら、この辺りにバラバラと落としていったらしい。

◎この辺も結構落ちた。不発弾がよく出たところがあったらしい。

◎ちょうど帰り道だ。迫間田あたりが。そういう話は聞いた。

◎迫間田あたりはよく落とされた。

4：寒川地区の困りごと

水害時の避難用舟

◎みんなに聞こうと思っていたが、俺がまだ小学校に入る前。どこのうちにも縁側というのがあって、そのところに木舟があった。

◎あれは、水場だから水害の時に舟で逃げるように。

◎家の中へ入れば吊るしてあって、子どもの頃は何に使うのかなと思っていた。

◎ひろい下屋があるところに吊るしてあった。

◎子どもには結構デカイ印象があった。

◎昔は、藤岡の新波（にっぱ）に舟大工がいて、新しく作ったり直したりしていた。

◎新波だったか、部屋（へや）だったか。

◎今は船大工なんて一人もいなくなった。

避難経路と避難場所の問題

◎先日、防災会の総会があったが、寒川地区の水害の場合、美田中、豊田中が避難場所になるが、寒川小は対象外。そのことをこの間初めて聞いたのだが、国の基準で雨の量でここは駄目だっていう。

◎うちの地区は、美田中へ行くのにも豊田中へ行くのにも、行くまでに大変なんだが・・・。

◎警戒レベルというのが5段階あって、4段階になると全員が避難となっている。ここはここの中里が中心で警報は発信するが、迫間田、寒川あたりになってくると聞こえない。そのときにどうするかというときに、フリッカーというライトが点滅しながら警報が鳴るものがあり、そういうものを街灯のところに設置すれば分かる。これが鳴ったら、必ず避難しなさい、と。

◎ここは永野川と巴波川の合流地点で、大水がたまると逆流する。だから押切が平屋の屋根が全部潜るような水害になって移転の話になった。押切の世帯は半数になる。

◎そういう地区で、美田中に動けと言っても無理。結局はこの寒川小学校の2階、3階のところへ避難するのがいいと思うが。水害の場合は避難対象外になっている。

◎どこかの地区へ移動と言っても、道路自体が水没するから逃げようがない。高い建物で避難場所を新しくつくるなどもアリではないか。

◎寒川の心配は、水害、そして高齢になってから車に乗れなくなると生活していけない、ということ。

◎台風がくるたびに心配する。今年はこないかな、くるかなという。

◎9年前は、私の家は天井の近くまで水がきた。神棚の下まで。2回目、5年前かな、家を建て直して少し上げたから、床下というか土台までしか

水がこなかった。9年前の時は、家に親父がいたのでは助け出せなかったかもしれない。女2人では。みるみるうちに水は上がってくる。寝ていて、暈が浮くという経験も初めて。あれ、何だと思って、地震かと思ったら、暈が浮いて驚いた。

◎その水門が閉じてしまったので、大水の逃げ道がなくなってしまった。逃げ道がないということはたま一方なので。みるみるうちに水位が上がる。だから、逃げている暇はない。本当にない。外を見るとすでに大水で、外に逃げる状態ではない。2階があったので、2階に避難した。

◎最近線状降水帯も怖い。ずっと同じところにいるから、台風よりもタチが悪い。

◎道路がすぐに水没してしまうから。

上下水道

◎水害はあるが、この地区には上下水道が無い。

◎市政懇談会でもその話になる。

◎鏡の場合は、共同水道（井戸）が老朽化して地震なんかあると割れてしまう。その修理代がばかにならない。近い将来、井戸を掘り返す話もあるが、市の上水道がこっちへくれば助かるのだが。

◎どこの地区も50年は経っているのではない。市の補助があって、みんな井戸を作った。

◎地区ごとの水道組合は、あったりなかったり。

◎迫間田はある。年間水道料が2万。

◎安いと言えば安い、不具合があると大きなお金がかかる。積み立てはしているから、それで修理する。

◎自治会とは別だから、自治会に入っていないくても水道組合に参加すれば、そこに水道を引く。

◎迫間田は北部と南部で水道組合が1カ所ずつあって、5人の役員さんを決めて、それも順繰りでやる。

◎上水道はメーターがついていて、順繰りで検針の係をして、基本料プラスメーター量。

◎下水道は、まとめて処理しては？と処理場の業者さんなどいろいろ営業に来る。そうすると排水

路を作らないといけないが、地区の意見として、なかなかまとまらない。

◎鏡は早かった。モデル事業でやったから。

地域コミュニティ

◎お囃子や祭りや協力しあっているが、50代60代やそれより上の世代。若い世代は集まりはできるだけ少ない方がいいと思っているようだ。

◎5地区あるが、協議委員というのがいて、そこに会長、副、会計の3役がいる。会議はだいたい13~14人ぐらいの協議委員が集まる。寒川地区では宴会13回やりたりしている。

◎それは多過ぎだ（笑）

◎この間、間々田支部の総会に行ったときに、どこかの自治会の方が、役をやりたくないからと自治会を抜けるケースが、十何軒あったと言っていた。

◎寒川でも最近では、一軒が自治会抜けたが、もともと強制ではないですから。規約の中に強制力ないから。強制してしまうと反発があるし、協力してやりましょうというのが自治会という意味です。皆さんで協力して暮らしましょう、と。

5：寒川地区の未来ビジョン

未来に残していきたいもの

◎祭りでいえば「花桶かつぎ」がある。7歳の女の子が主役。1月の最後の土曜日にやる。

◎和紙で花を作り飾って桶を2つ竿の両側につけてそれを担ぐ。女の子は七五三の着物で、お母さんも着物でつきそう。出すお手当が1万だが、着付けや髪をゆったりで結構かかるはず。

◎胸形神社のところから神輿と山車を出し、山車の前にお囃子もつく。オオド（大太鼓）とツケ（締め太鼓）だけで、公民館で教えている。

◎子どもの数も減っていて、7歳の女の子が毎年なかなか見つからない。今年（2024年1月）は

7歳の女の子がいなかったの、形だけ神社で行った。

--

補足1：小山市ホームページ「市の無形文化財」より：
美しく着飾った7歳の女の子が花で飾られた桶をかつぎ、夜道を神輿・山車とともに、天満宮から胸形神社へと寒川地内を歩きます。神の子から人の子への節目と考えられる7歳の稚児が正装し、若水を入れた桶を象徴する花桶をにない、神輿の先導者として神に奉仕する習俗は県内でも珍しいものです。（昭和48年3月11日・市の無形文化財に指定）

補足2：下野新聞2023年1月29日の記事に、新型コロナウイルス感染拡大で2年間実施できなかったが、3年ぶりに1人の女子が稚児役を担い開催されたとある。

◎花桶かつぎは、昔の女の子の口減らし。食べていけない農家が、女の子を奉公に出す。

奉公に出すというのは、悪い言い方をすると身売りするということ。これは記録とかには残っていないようだが、私の祖父から聞いたこと。花桶かつぎをやる時間は昔から夕方5時6時ごろから始まり、夜道を歩く。巴波川のところに昔でいう遊郭があってそこを經由して身売りされ、奉公に出される。川の流れが江戸、東京に向かう、都内にいくでしょう。下に下っていく。花桶祭りというのは、もともとのお話はあまり楽しい祭りではない。

◎テレビドラマの『おしん』の世界だな。

補足3：風景社コメント～小山市史など公式な記録には残っていないが、祖父の方からの伝聞は、7歳という年齢から遊郭などで働く成人女性の身の回りの世話をするものとして、または、子守などの仕事をする者として（テレビドラマ『おしん』のように、米俵などと引き換えに）奉公に出されていたと理解する。

◎蛇祭りと花桶かつぎは昔、だいたい同格だった。蛇祭りは今も盛大に続けているが、間々田は商店街が多いから寄付金が集まる。寒川とは資金

力が違う。

◎他にも、夏祭りも昔はやっていた、和楽踊りなども。

◎由緒も歴史もある胸形神社があり、そこでの子ども相撲も続いている。これは10月19日と決めてやっている。

◎寒川小学校は、今、全校生徒で38人だから、いつまで子ども相撲も続くかどうか。

◎コロナで何年かやらなかったものを、今年はいろいろと復活させているから。自治会長にとっては最悪の当たり年かもしれない（笑）。

◎子どもが減っていくのは、本当に祭りの開催が危うくなるということ。会議でも、花桶かつぎについては、寒川から他の地区のお嫁に行った人の娘さんとかも対象にしようかという声も出たりしている。やはり地元でのお祭りなのでとりあえずは今のままで・・・。

30年後の土台づくりと喫緊の課題

◎自治会長を引き受けたことで、他の地区の人に「自治会長をやると、いいことはない。でも悪いこともないから。ただ、いろいろと勉強になる」と。ただ、市の集まりが多くて、市の人や関係者が仕事できているが、我々にとっては、本音を言うと、余計な仕事。とはいえ、市の動きも知ることができるから、いろいろ考えてしまう。

◎30年後を考えるのも必要なことだと思うが、もっと先にやる必要があるのではないかな。大切なものを残さなくてはならない。当然。これは間違っていないと思う。それ以前に、前会長がやはり地域的なコミュニティを作るために考えていたように、医者とか医療関係とか、他の地区に行くのではなく、例えば公民館とか自治会館とかそこに作るとか、みんなでそういう拠点作りをやりましょ、というほうが賛同する人が多く集まる。

60、70になってくると、年金だけでそうやって生活していくかという話ばかり。

◎もちろん今の生活の基盤づくりが大切。でも、

未来に向けての土台づくりも大切。

◎未来への土台だとして、これは30年後に形になるとしても、どういう計画でやっていくのか、どう活かしていくのか、そこを知りたい。

◎30年後って言いきれないで、別に3年後でも5年後でもいいし。徐々にやっていくべき。30年後と言ったら遠すぎて、われわれもここにいる人はほとんどいない。

◎5年でも何年後でもなんでもいいんだけど、今やることというのは、皆さんの生活の、これをやると助かるなという、そこを大切に考えていかないと・・・。

◎優先順位を考えるのは大事だ。

◎行政も（過疎が進んでいる地域へ目を向けるのが）遅すぎだ。もう何十年も前から、少子化だ、少子高齢化だと国は言っていたが。

◎小山市に地区がいくつかあるが、ここは本当に農業中心の地区で、病院もなくなる、スーパーはなくなる。コンビニエンスストアはいくつかあるが、それ以外はほとんどない。コミュニティバスも通らない。そういうふうに縮小してくるから、経費もかかると言っ、それをカットしながら、未来をどうしましょうかというの・・・。皆さん（行政）の発想よりも、ここで生きている人はもっと切実だ。免許だって70、80になると返納しちゃう。その後どういうふうにするのか。

◎いろいろなプランを作るのであれば、ここにスーパーは無いから、どういうふうにするといいとか、そんなプランが必要かとか、逆に皆さんから教えてもらいたい。プランを作っ、ずっとそのままではなく、計画を作っ、3年後に達成するとか、5年後に実現するとか、そういう着地点を作らないと、ビジョンもあつてないようなものになる。

◎小山市だけではなくて、日本人というのは会議をして満足、それで終わり。会議をすると仕事したかのように思う。

◎錯覚を起こしちゃう。終わってないのに終わっ

たと思って。

◎会議ただけで仕事の達成感が頭の中に生まれてしまうのではないか。それで終わっちゃう。だからこれは何年後に達成するというまず決まりを作らないと、何回やっても同じ。

◎交通でも、ここはだんだん取り残されている。昔は路線バスが通っていたが、なくなってしまったから、息子が栃木の高校へ通うのも電車しかないので大変だった。

◎昔は旧道に通っていた、東武バスが。

◎路線バスだって6時で終わり。部活やったら乗れないんだから。

◎とにかくどこへも行けない。

◎思川より西で、開発というか行政が手をかける動きが止まっている。向こうの小山地区とか、いろいろあるが、こっちの農村地区、これをどういうふうに活性化というか、いい案というのはいないか。組み合わせ、ここにもこういうのがあるということ。

◎だいたい昔になるが、こっちの活性化のために小学校に手をかけていた。寒川小学校は校庭が全面的に、雨の後でも完全な排水ができるようになってる。校庭に全部、暗渠を掘ってあるから、どんなに大水がきてもすぐぬからない。

◎小山市内で最初にランチルームを作ったのも寒川小だったと思う。この数年のことを考えても、今後は、どんどん出遅れるかな。

◎逆に言うと、やはりいろいろな申し出を出しても優先順位があり、後回しになると、ますます遅れる。

◎小学校だってなくなってしまうという話になっているが、その一方で、市内の中心部は子どもの数が増えているでしょう。その格差が出ている。どうしようかというのは、格差をある程度、解消しない限りは、どういうふうに頑張ろうと言っても、無理とは言わないけども、全てが進み方は遅い。

◎自分の地区を悪く言ってもしょうがないけど、

ずっとそういう状況。そこをどういうふうには正
するかにちょっと力を入れて。要望は出している
が、なかなか取り入れてもらえない。

◎大谷南部とか絹とかも、どんどん子どもの数も
減っているかもしれないが、まだこちらより状況
はいいと思う。畑場とか高台だから。水害は無
い。

◎こちらは水害も不安だし、交通の便も駄目だ
し。何もない。

◎この辺りと言えば、イチゴの里や、思川の道の
駅など、なにか目玉になるものがないと。人が集
まるなり、お金も落ちるようなもの。今の時代と
離れているかどうか分からないが、やはり何かア
クションがないと、何をするんだということで、
皆さんは、昔の歴史を掘り下げて資料を作りまし
ょうというところまで関心がない。どこをどうし
ていくのか、というアクションがないと。

◎巴波川にサイクリング道路を作って、道もある
からいろいろ散策できると思うが、こっちへ行く
とあまりない。ますます過疎化になってくるし、
増えてくるのは空き家だけだ。

3-2 アンケート調査結果（概要と考察）

寒川地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細、自由記述を書き出したデータは別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載する。

回答数/回答率について（再掲）

回答総数：171 件

内訳

- ・自治会による協力で回収：97
回収率 22.9% 母数 423
- ・郵送による回答：14
郵送での回収率 2.7% 母数 512
- ・インターネット回答：60

1：回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 53% :91 名	女性 29% :49 名
--------------	--------------

その他 0 名 無記入 31 名 無効 0

-2 年代

70 代以上	41%	70 名	72%
60 代	31%	54 名	
50 代	15%	25 名	23%
40 代	8%	14 名	
30 代	2%	3 名	3%
20 代以下	1%	2 名	

無記入 3 名 無効 0 名

-3 世帯人数（回答数が多い順）

2 人世帯	30%	51 名
4 人以上世帯	29%	49 名
3 人世帯	20%	34 名
本人 1 人世帯	15%	25 名

無記入 11 名 無効 1 名

-4 職業（回答数が多い順）

無職	40%	70 名
会社員	25%	44 名
パート/アルバイト	8%	13 名
農業（専業）	8%	13 名
農業（兼業）	6%	10 名
自営業	5%	9 名
公務員	4%	7 名
団体職員	1%	1 名
学生	1%	1 名

その他 4 名、無記入 1 名 無効 3 名

調査票での「無職」の表記は、「無職（退職者・主婦・主夫等含む）」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

>別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

-7 寒川地区との関わり～回答が多い順（選択肢から選ぶ方式）

無記入 5 名、無効 2 名

寒川地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。 | 61 名（36%）

寒川地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。 | 27 名（16%）

寒川地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。 | 7 名（4%）

寒川地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った | 5 名（3%）

小山市の他の地区で生まれ育ち、寒川地区に移り住んだ。 | 23 名（14%）

栃木県内の他の市町で生まれ育ち、寒川地区に移り住んだ。 | 29 名（17%）

栃木県外で生まれ育ち、寒川地区に移り住んだ。 | 12 名（7%）

寒川地区で
生まれた
59%

寒川地区以外
の県内から
移住 31%

県外から
移住 7%

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた		7%	24%
栃木県内の他の市町で生まれた		17%	
小山市で 生まれた	他の地区	14%	73%
	寒川地区	59%	

●コメント欄の記述

寒川地区に他所から移り住んで来た人やUターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。（コメント回答 66 件）

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①実家との関係で	32
②結婚に関する理由で （結婚を機に実家に）なども含む	20
③仕事の都合で	10

●寒川地区へUターンした人の記入コメントより

①実家との関係で

◎親の介護 ◎長男なので ◎親の敷地に家を建てて、など

②結婚に関する理由で

◎結婚した夫の家族と同居、など

③仕事の都合で

◎転職 ◎長期派遣から地元に戻った ◎会社員から農家に転職、など

1-2 集計結果より

他の田園部の地区と同じように、Uターンの理由は「実家との関係」に基づく回答が多く、地区外で生まれた女性においては「結婚を機に」という理由が多い結果となっています。前者においては、アンケートの自由記述やグループインタビューの内容などから、中地区にとどまる子ども世帯の条件として、実家の敷地内に新居を建てられる面積の余裕がある場合、改修して住居として使用できるような納屋などがある場合、また仕事先が通いやすい場所にあることが伺えました。

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

-1 仕事や学校へ通っている地域

-2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
寒川地区	46	間々田地区	50
小山地区（駅西）	13	栃木市	40
栃木市	13	小山地区（駅西）	25
小山地区（駅東）	8	小山地区（駅東）	25
茨城県	6	野木町	6
間々田地区	5	栃木県内野木町以外	2
栃木県内野木町以外	5	絹地区	2
埼玉県	4	宇都宮市	2
絹地区	3	寒川地区	1
宇都宮市	3	茨城県	1
東京都	3	埼玉県	1
桑地区	2	桑地区	1
大谷北部・中部地区	2	大谷北部・中部地区	1
穂積地区・中地区	2		
野木町	2		
群馬県・千葉県	2		
豊田地区	1		
その他	4	その他	3

-1 無記入 47、無効 0

-2 無記入 8、無効 3

2-2 集計結果より

寒川地区では、仕事、日常的な買い物や用事、休みの日に自然の中でリフレッシュしたりアウトドアスポーツを楽しんだりすることにおいては、地区内で完結している回答者が圧倒的に多い。寒川地区を選択した回答者が少ないのは「特別な買い物や会食、イベントなどで出かける場所」であ

選択肢から2つを選ぶ

-3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等によく出かける地域

-4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等に出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	68	栃木市	35
小山地区（駅西）	54	栃木県内野木町以外	31
栃木市	39	寒川地区	19
栃木県内野木町以外	22	群馬県・千葉県	15
間々田地区	16	小山地区（駅東）	13
茨城県	13	小山地区（駅西）	13
東京都	11	茨城県	13
野木町	7	生井地区	10
埼玉県	7	間々田地区	5
宇都宮市	6	野木町	5
桑地区	3	埼玉県	4
絹地区	2	東京都	3
寒川地区	2	宇都宮市	2
穂積地区・中地区	2	桑地区	2
群馬県・千葉県	2	穂積地区・中地区	2
大谷北部・中部地区	1	豊田地区	1
その他	2	その他	9

-3 無記入 18、無効 0 名

-4 無記入 60、無効 0 名

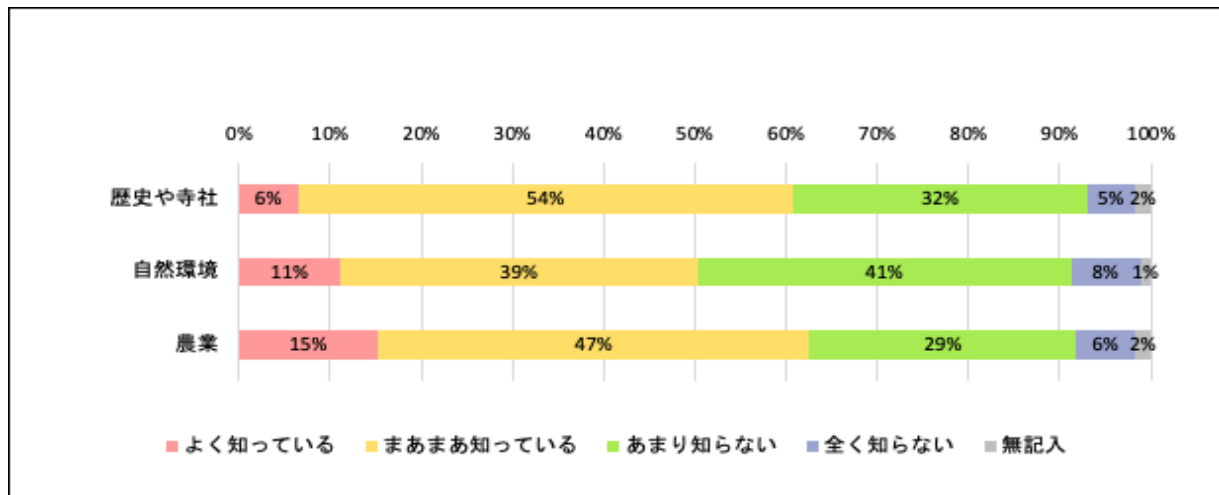
り、その行先としては、小山地区（駅東）小山地区（駅西）が上位であり、栃木市がそれに続く。自然の中でリフレッシュしたりアウトドアスポーツを楽しむための行き先としては、栃木市と（栃木市と野木町を除く）県内の市町が上位であり、次いで、地元の寒川地区という結果になっている。

3：寒川地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

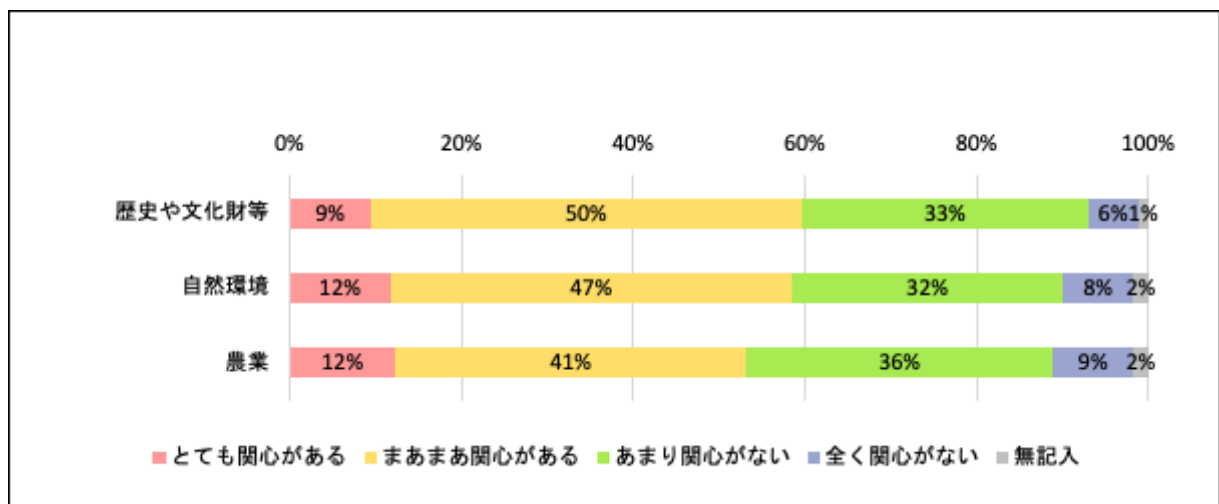
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、近隣に残る城跡や神社や寺の歴史、由緒、祭り等を知っていますか？
 (2)地区にある公園、街路樹、平地林などについて知っていますか？
 (3)地区内の農業についてどのような地域でどのような農業が行われているか知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
 (2)地区に残る自然環境に関心がありますか？
 (3)地区の農業に関心がありますか？



●年代別の集計結果

* 年齢別回答人数が少ないため、%表記ではなく人数での記載とします。

(1)寒川地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	104 名		62 名	
	11 名	93 名	53 名	9 名
20/30 代	0 名	1 名	4 名	0 名
40 代	0 名	6 名	5 名	3 名
50 代	1 名	14 名	9 名	1 名
60 代	5 名	31 名	13 名	5 名
70 代～	5 名	41 名	22 名	0 名

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
100 名		66 名	
15 名	85 名	56 名	10 名
0 名	3 名	2 名	0 名
0 名	8 名	4 名	2 名
3 名	11 名	9 名	2 名
2 名	31 名	16 名	5 名
10 名	32 名	25 名	1 名

(2)寒川地区の公園、街路樹、平地林などについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	86 名		80 名	
	19 名	67 名	66 名	14 名
20/30 代	0 名	1 名	3 名	1 名
40 代	0 名	6 名	5 名	3 名
50 代	2 名	11 名	10 名	2 名
60 代	5 名	20 名	22 名	7 名
70 代～	12 名	29 名	26 名	1 名

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
98 名		67 名	
18 名	80 名	53 名	14 名
0 名	2 名	2 名	0 名
1 名	7 名	3 名	2 名
1 名	12 名	10 名	2 名
3 名	27 名	16 名	8 名
13 名	32 名	22 名	2 名

(3)寒川地区の農業について (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	105 名		60 名	
	24 名	81 名	50 名	10 名
20/30 代	0 名	1 名	4 名	0 名
40 代	2 名	5 名	4 名	3 名
50 代	4 名	12 名	8 名	1 名
60 代	7 名	26 名	16 名	5 名
70 代～	11 名	37 名	18 名	1 名

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
89 名		76 名	
20 名	69 名	62 名	14 名
1 名	2 名	2 名	0 名
1 名	5 名	7 名	1 名
2 名	11 名	10 名	2 名
7 名	19 名	21 名	7 名
9 名	32 名	22 名	4 名

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える寒川地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— 事前に自治会長の皆様への説明時にご相談して設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順（数字は回答人数・無記入などは不記載）

1 公共交通の不便さ	62
2 台風・大雨による被害	59
3 買い物の不便さ	51
4 人口減少	46
5 地域活動の担い手、後継者不足	41
6 空き家・空き地の増加	40
7 農業の担い手、後継者不足	27
8 医療機関の不足	26
9 昔からの風習	17
10 地域の集まりや寄り合い	16
11 祭りや伝統芸能の担い手、後継者不足	12
12 地域でのコミュニケーションの不足	9
13 選択肢が少ない教育環境	8

13 路上等のゴミとゴミ出しのマナーの悪さ	8
14 子どもが外遊びできる場所の減少	7
15 道路の不具合	6
16 治安の悪化	5
17 選択肢が少ない働く場所	2
17 騒音など住環境への影響	2
18 交通渋滞	0
その他3、無記入7	

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 生活環境に関すること	29.7%
2 人口減少・担い手・後継者不足	28.4%
3 交通や移動に関すること	15.3%
4 水害に関すること	13.3%
5 地域コミュニティに関すること	9.5%
6 教育環境や就労に関すること	3.8%

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

20代 2名 / 30代 3名	40代 14名	50代 25名	60代 54名	70代以上 70名
1 公共交通の不便さ 3	1 人口減少 6	1 台風や大雨被害 11	1 台風や大雨被害 23	1 公共交通の不便さ 25
2 人口減少 2	1 公共交通の不便さ 6	2 公共交通の不便さ 8	2 買い物の不便さ 21	2 台風や大雨被害 24
2 地域 担い手不足 2	2 子供の外遊び環境 5	3 空き家・空き地 6	3 公共交通の不便さ 18	3 地域 担い手不足 21
2 農業の担い手不足 2	3 買い物の不便さ 4	3 人口減少 6	4 地域 担い手不足 14	3 買い物の不便さ 21
2 昔からの風習 2	4 地域の集まり寄合 3	4 地域 担い手不足 4	4 空き家・空き地 14	4 空き家・空き地 18
3 祭りの担い手不足 1	4 昔からの風習 3	4 農業 担い手不足 4	5 人口減少 13	5 医療機関の不足 17
3 地域の集まり寄合 1	4 教育環境の選択肢 3	5 地域の集まり寄合 3	6 医療機関の不足 7	6 人口減少 16
3 空き家・空き地 1		5 昔からの風習 3	7 農業 担い手不足 5	7 農業 担い手不足 13
3 教育環境の選択肢 1			7 地域の集まり寄合 5	8 昔からの風習 8
3 買い物の不便さ 1				

全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている

4-2 集計結果より

設問【4】の集計結果において、年代別の回答を見ると、全ての年代において「公共交通の不便さ」が上位3項目に挙げられている。20代から40代では「人口減少」が上位に挙げられ、50代以上では「台風や大雨の被害」が上位に挙げられる。

ジャンル別で割合をみた結果の上位3つの領域、「生活環境に関すること」「人口減少に伴う担い手不足に関すること」「交通や移動に関すること」に分けて、設問【4】の自由記述に寄せられたコメントから一部を抜粋して記載し、最後に複合的な内容のコメントを記載する。

--

(1) 生活環境に関すること

◎買い物は自動車がないと行けない。歳をとったときに不安。地域医療の要である医院の閉鎖の話しが聞こえてきた。近くのバス停まで歩いて20分以上かかる。女、子供の足ではもっと時間がかかる。とにかく寒川地区は小山市の中でも置き去りにされているように感じる ◎何をするにも施設が遠く不便である

(2) 人口減少に伴う担い手不足に関すること

◎寒川地区は水田地帯であるにしても、農業後継者（担い手）の問題は国家的規模です。なんとか今のうちに取り組んで欲しい ◎農業だけで生活できないが、兼業するには時間も資金もない ◎農地はあるが高齢化と機械化で継続困難。良い手立てはないか ◎新しいことを始めないと、人口は減るばかりだと思う。昔からのものにこだわりすぎ。昔からのものを残すなら、今の流れも取り入れたりして残さないと魅力はないと思う ◎選ぶのが3つでは少ない。寒川は困りごととはもっとある ◎高齢化が進み、近年空き家も増え、活気もなくなっているように感じる。調整区域のため新しく入って来る人もいなく、学校も子どもがい

なくなっている ◎過疎化阻止の早急な対策を ◎人口減少、経済のシュリンク（縮小）、税収不足などのスパイラルの中で地域の切り捨てが始まる事に大きな危惧がある

(3) 交通や移動に関すること

◎デマンドバスの不便さを早急に改善することを願います ◎子供が高校に進学する時に交通手段がない ◎現在は車に乗ることができるが、それができなくなるとどこへも行けなくなるのではないかと心配 ◎寒川地区は陸の孤島で全てが車移動である。免許返納したら生活にならない

(4) 複合的なコメント

◎寒川地区にはバスが走っていない。近隣の生井、中地区にはバスが走っている。巴波川を挟んで対岸の地区にも栃木市のバスが走っている。寒川地区は歴史のある地域なのにエアポケットのように公共機関の交通手段がない。住みたいという人はいないと思う（外から）。車の免許を返納した後の買い物、通院等、単身世帯だと、どこまで生活していけるのか。足が弱りバスも大変になってくると、家での生活はここではできないのだろうと思う。人口減少は全国的にも深刻な課題になっていることです。この問題を早く解決していかないと、すべてが成り立たなくなってしまう。多くの若者が結婚して子供を産んで、育ててほしい ◎ハザードマップが赤で堤防決壊の不安。大雨被害が心配。今は車で買い物、医療を受けられるが、将来は不安 ◎寒川地区の困りごとを3つに絞ることは難しい。2度の災害にも遭っていることや、高齢者が増える一方で、調整区域のため新しい世帯が増えていかない。そのため学校も年々児童数は減少し、活気がなく感じる。農業も後継者不足で、いつまで続けていけるのだろうか

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える寒川地区の小さな自慢は何でしょう？」

設問【4】と同様に選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

1 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・	77
2 地域の農業・・・	55
3 消防団や自治会など地域の互助活動・・・	51
4 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・	43
5 公民館で行われる祭りやイベント・・・	38
6 まちなみや景観・・・	26
7 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・	18
8 交通の利便性・・・	17
9 買い物の利便性・・・	14
9 街路樹や公園、平地林などの自然・・・	14
10 趣味やスポーツの地域のサークル・・・	7

11 地域の商業・・・	4
12 地域の工業・・・	1
その他 11、無記入 22	

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 歴史的な地域の資源	37.8%
2 地域コミュニティの繋がり	26.3%
3 地域の産業（農業単体で2位）	16.4%
4 利便性が良いこと	8.5%
5 地域の景観	7.1%
6 地域に残る自然環境	3.8%

●その他について

その他を選択し、コメント欄に具体的な回答があったものが4件。

◎いちごの里 ◎観光農園・県南市場 ◎そもそも全てにおいて欠けている ◎地域の水道事業

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

20代 2名	30代 3名	40代 14名	50代 25名	60代 54名	70代以上 70名
1 歴史的史跡や寺社 4	1 歴史的史跡や寺社 6	1 歴史的史跡や寺社 13	1 歴史的史跡や寺社 25	1 歴史的史跡や寺社 29	
2 祭りや伝統芸能 2	2 公民館での催事 5	2 地域の農業 10	2 地域の農業 19	2 地域の互助活動 25	
2 地域の互助活動 2	2 地域の農業 5	3 祭りや伝統芸能 6	3 地域の互助活動 18	3 地域の農業 20	
2 歴史的建築や古木 2	3 歴史的建築や古木 4	4 まちなみや景観 5	4 祭りや伝統芸能 14	4 祭りや伝統芸能 18	
2 公民館での催事 2	3 まちなかに残る自然 4	5 地域の互助活動 4	5 まちなみや景観 10	4 公民館での催事 18	
3 交通の利便性 1	3 まちなみや景観 4	5 公民館での催事 4	6 公民館での催事 8	5 交通の利便性 8	
3 買い物の利便性 1	4 祭りや伝統芸能 3	6 歴史的建築や古木 3	7 交通の利便性 5	6 買い物の利便性 7	
3 地域の農業 1	5 地域の互助活動 1	7 交通の利便性 2	7 買い物の利便性 5	6 まちなみや景観 7	
		8 まちなかに残る自然 1	8 残っている自然 4	7 歴史的建築や古木 6	
			9 歴史的建築や古木 3	7 地域のサークル 6	

全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている

5-2 集計結果より

設問【5】の集計結果において、年代別の回答を見ると、全ての年代において「歴史的な史跡や神社」が1位に挙げられ、40代以上では、「地域の農業」が上位3項目の中に入っている。母数が少ない20代30代を除くと、「地域の互助活動」は、年代が高くなるにつれ、上位に入る傾向が見られる。

設問【5】の自由記述に寄せられたコメントを一部抜粋して記載する。

(1) 歴史的な地域の資源

◎胸形神社はかなり古い歴史があると聞いていますので残してほしいと思う ◎胸形神社や中里神社といった歴史ある史跡、花桶かつぎといった伝統芸能はあっても継承していく人物が減っていくのは課題 ◎①胸形神社②花桶かつぎ祭り⑤どんどん焼、ウォーキング、桜祭り

(2) 地域コミュニティの繋がり

◎小さな集落で老人化するなか地域の楽しみなどなくてはならないもの。また足の衰えた方やイベント会場へ来られない方など、どうにかできないか考える ◎農業移住や地域カフェ、こども食堂など興味あります！！

(3) 地域の自然や景観

◎公園で春に見られる桜が好きだから大切に守りたい。公園には子供が小さい頃の思い出がある ◎寒川地区の”小さな自慢”といたら、緑豊かな田園地帯と、澄み切った空気と、豊かな水の、絵になるような風景。そして、そこに住む人々の人情味あふれた生活だと思います。どんなに世代が変わっていても、寒川地区に住む人々が人間らしく、心豊かに明るくのびのびと毎日の暮らしを営んでいけたらと、切に思います

(4) その他

◎特にない。行政のイニシアチブで、必要な市民サービスなど地域格差が起きないように、意識をしっかり持って頂きたい。すでに地域ごとに特色を持つ時代ではない ◎教育環境としては、静かで、教育に生かせる教材がたくさんあると思う。子どもたちを大切に育むためにも学校は残すべきだと思う

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

6-1 設問【6】の集計結果

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

1 ゆったりと休養している時	99
2 家族だんらの時	96
3 友人や知人と会合、雑談している時	78
4 仕事に打ち込んでいる時	71
5 趣味やスポーツに熱中している時	67
6 勉強や教養などに身を入れている時	21
7 社会奉仕や社会活動をしている時	16

その他2名、無記入4名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？

豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

1 心も体も健康でいられること	108
2 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること	80
3 好きなことをする時間のゆとりがあること	68
4 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること	52
5 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること	37
6 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること	34
7 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること	28
8 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること	24
9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること	13
10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること	11
11 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること	9
12 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと	7
13 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること	5
14 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること	1
15 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと	0

その他2 無記入3

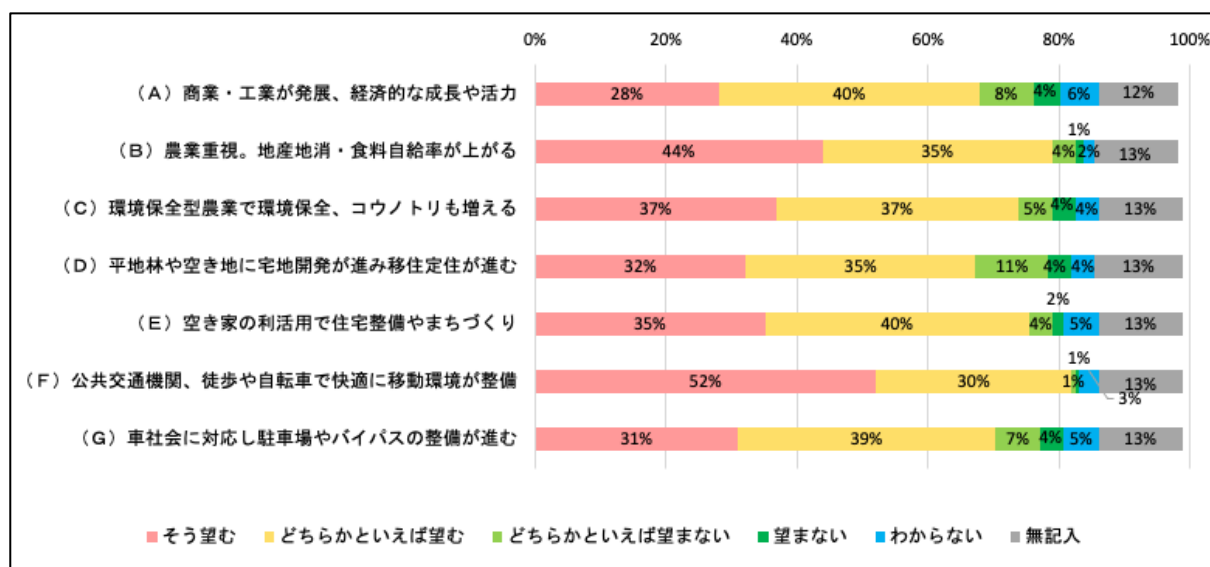
7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」
(1) 20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方について、ご意見をお尋ねします。

A から G それぞれについて、選択肢の中からお考えにうものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）

選択肢①う望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略 * () 内の数字は「そう望む」の回答者の%

- 82% (52) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 79% (44) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 75% (35) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む
- 74% (37) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 70% (31) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 68% (28) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 67% (32) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

7-2 集計結果より

●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとした。

●結果の概観：寒川地区の特性

他の地区と同様に、「そう望む/どちらかと言えばそう望む」を選択した支持者が多い上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ結果となっている。

田園部の中でも、特に寒川地区は、グループインタビューやアンケート調査などで「人口減少」「若い世代の流出」を深刻な問題として語られることが多いかった地区ではある。その対応策ともなる住宅整備においては、(D)の項目「空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える」が、最も支持率が低く、(E)の「空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む」は、支持率が3番目に高い結果となっている。若い世

代むけの住宅整備は望むが、自然を破壊しての宅地開発より、増え続けている空き家を活用した住宅整備が望ましいという意識の現れだと推察できる。

7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。

(2) 最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。*例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。*また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的なお提案など、自由にお書きください。

64名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

本報告書では、別添の「アンケート集計結果報告書」にテーマごとに掲載した回答者のコメントからビジョンの考え方の根本に関するご意見を、寒川地区についてのコメントと、小山市全体についてのコメントに分けて、次のページから紹介する。

7-4 自由記述から一部を掲載

1. 寒川地区の未来について

① 過疎化への不安

◎寒川地区は不便な場所で今でも子どもが少ないので、20年後30年後には動物の棲家になる様な気がしてならないです ◎調整区域だから、建物を建てられないとか制限が多すぎる。何でも建てろとは言わないが、国道沿いからきれいな街並み（整備する）とか、街灯をもっと充実させるとか、空き家はどんどん活用、無くすなど、何かしら変えていこうと変化しないと魅力はない、人は増えないと思う。50年後、この地域は間違いなく誰もいなくなっている ◎過疎化が激しい地域の見直しが必要。学童がなかったり、バスも通らず子供が高校に行くための交通手段がない場所に若い世代は住みたくないと思う

② 多世代が住みやすい地区に

◎若者も子育て世代も高齢者も住みやすい都市環境づくりをお願いします ◎老人も若者もどちらも住みよい小山市にしてほしい ◎少子化を解消し親子で暮らせる環境でありたい ◎子育てしやすい若い人達が集まり、年寄りも住みやすい町

③ 生活環境や利便性について

公共交通

◎おーバスのバス停の復活 ◎デマンドバスの利便性を高めてほしい（所野塚医院の通院） ◎ここ寒川地区は小山市の街中へのアクセス方法が少ない。これから高齢化が進む中、交通手段の確保など考えて欲しい

自然環境

◎水と空気がきれいな町であってほしいです ◎平地林などはできるだけそのまま残し、村や町を流れる川が冬でも水があり、魚などがその中で産卵し成長できる小川であってほしい

水害・災害

◎水害の心配がいない寒川地区にしてほしい
◎災害に強いまちづくり（特に水道施設） ◎安全・安心な、まちづくり。災害に強いまちづくりをしてほしい！

上下水道

◎我が家のある地区は井戸水です。田植えの時期になると、水が出なくなり、過去2回の大水の時などは濁っていて、1週間は入浴も料理も出来ませんでした。浄水器は必ず付けていますが、説明書を読むと水道水に装着するのが条件です。すぐ北の鏡地区までは市水道が来ているようなので、我が地区も水道整備をお願いしたく思っています
◎寒川地区における上下水道の整備。個人での井戸・浄化槽の工事の際の補助金の大幅拡大（高齢者や年金生活者世帯での負担は特に）

総合的なコメント

◎農村地域の基本的な日常生活が維持できる社会インフラとして、地域住民のコミュニティの場のほか、買い物や医療の場、移動手段の確保といった事項は、最重要課題であると思う ◎環境リスクを減らし、人々が安全に暮らせる地域に。農地・宅地を自由に売り買いできる地域に。農業は株式会社にて、生産性を上げ、計画生産する。上記はこの地域では未来永劫不可能なため、他の都市部へ移住したい ◎物が豊かになり、生活も安定して、なんの不便さもない暮らしになっていくと、人と人とのつながりが希薄になってコミュニケーションもなくなり、助け合い、支え合って生きて行くという人として最高の幸せを感じられなくなってしまうのではないだろうか？多少の不便さがあっても、お互いに助け合い支え合って、心豊かにおだやかに過ごせる。そんな寒川地区にしたい。そんな魅力ある寒川地区に、他県からも移住してくるような農業体験型の宿泊施設を作り、四季折々の野菜作りやいちごやお米など作り、若い人が移住してもらえるような環境づくりをしてほしいです。それには、最低でも近くに病院とスーパ

ーが、そしてみんなが集まるきれいな公園があったらいいなあと思います

④農業について

◎農業を良くしていく、具体的な政策や方向性が聞きたい。抽象的な話ばかりでつまらない ◎健康＝食と考え、安心安全な農作物の生産に期待したい

2.小山市域全体の未来について

◎都市部と農村部の公共交通機関の充実が農村部の過疎化の防止に繋がる。住民の高齢化は必至なので、都市部の老人が農村部の野菜を生産者から直接購入できる、あるいは農村部の住民が市役所や大規模小売店や病院に容易にアクセスできる、という住民の移動の容易性を最大限に上げれば、市としての一体化・発展が可能になるのではないかな

◎人口が駅東、城南、大谷地区に偏るのでなく、駅西地区にも人が集まるような政策をお願いしたい。教育環境も整っているのに、人口減少のため小学校中学校の児童、生徒数も少なく、“学び合い”の面では物足りなさを感じる。小規模校の解消をするような方策を講じていただきたい。高齢者も子供たちも住みよい寒川地区となるよう、公民館の活躍を期待しています。過去のような災害が起こらない対策を行っていかねばならない ◎栃木県で第2位にふさわしい街づくりの推進に向け、人口の増加等を計画的に進めて都市環境と田園環境が調和の取れた街づくりが重要ではないかと思う。他市町との合併も重要ではないかと思います ◎都市環境を持つエリアにお店等が集中しているので、車で移動できるうちは感じないが、買い物難民がでないよう郊外に住む高齢者も安心して生活できるようなシステムを考えてほしい

◎ある一部の地域を開発するのではなく、バランスよく都市開発を進めてほしいです。また、公民

館とは本来どんな役割なのでしょうか。寒川地区に公民館がありながら、地区の変化について公民館で働く人々が然るべき部署に気付きを挙げ、共有はされてはいないのでしょうか ◎何かを実施した結果、どこかに不具合、マイナスが生じてしまつては、このビジョンを作る本来の意味合いが薄れてきてしまう。だからこそ、利害が対立する立場になる、都市部と農村部の住民間の相互理解を進める場が常にあるってほしいと思います ◎新しい道路を作りすぎる。今まで通っている道路を整備してほしい

3.今後のビジョン実現の進め方

◎平成27年9月関東豪雨、2019年の台風19号で押切は多くの住宅が被害にあった。「まちづくり」の前に「ひとづくり」が重要とみています。寒川地区に人材は大勢います。望みは寒川地区を活性化したいです ◎住んでいる寒川地区の30年後を考えた時、戸数並びに住民は半減していると想定されます。現在の美しい田園地帯の維持は困難となり、農家の従事者は数える程となるのではと危惧しております。寒川地区を田園環境都市にとの構想は、素晴らしいとは思いますが、具体的な提案となるとかなりの時間を要すると思います。大規模農業が可能な田畑の改革や後継者の育成を本気で取り組んで行く必要があると思います。しかしながら、小山市のトップが変われば継続は難しい様な気がします。時間と経費を割いて、これだけのアンケートを実施する訳ですから、達成出来るまで継続願います ◎効率化を図ること、財政健全化を進めることが田園地域を置き去りにすることに直結する。安易な方法は避けなければ、田園地域に先はない。短絡的なイベントなどの開催で注目を集めようとしても短期間で飽きられ、長期的には無意味。田園都市を目指すなら、個々の農家に期待、依存するのでは無理。規模の経済という言葉があるように、行政も参画した強い農

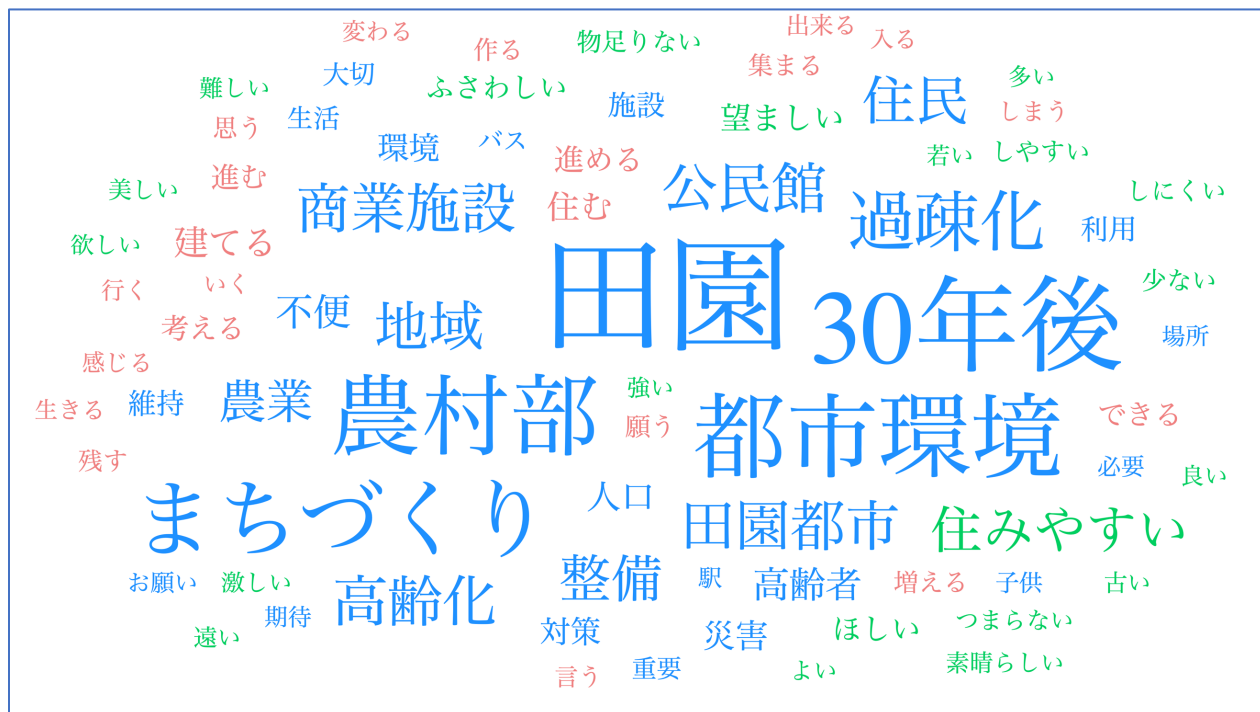
業組織を作ること、それをアピールすることが必須。長期目線で立案、実行できる人材の確保と育成から始める必要がある ◎30 年後の小山市を見据えることも大切だが、現代は VUCA と呼ばれる将来の予想も困難な不確実性の時代です。移り変わりが激しい時代でもあるので、必ず 3 年・5 年という small goal を設定し、進捗状況を確認しながら様々な施策を進めていくことが大切だと思います ◎商業の発展は購買力が増えなければ望めない。つまりは人口増加を目指す事になる。工業の発展は出先の事業所を誘致するような旧態依然の方針は通じない。であれば新事業の本社を誘致する事になる。…といったグランドデザインを企画しなければ将来は見通せない。いずれにしても人口は減少し、高齢化が更に進むのだから、見合った都市計画が必要。小山市だけで解決できる課題ではないという事を認識し、行政改革を推進して頂きたい

7-5 自由記述からの頻出キーワード

【7】の自由記述欄（30 年後へのご意見）に寄せられたコメント全件で多用された言葉を、1つの参考として紹介する。

テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出で、基本的には、大きく表示されたもののほど、語られた回数が多くなっている。ただし、「一般的な文書でよく使用される単語（思う。考える。私、など）は統計処理の際の重み付けを軽くし、一般的な文書ではあまり出現しないが調査対象の文書だけによく出現する特徴のある単語は重視する」という処理方式を行っている。

【7】自由記述 5753 字から抽出(※ユーザーローカル
AI テキストマイニングによるキーワード抽出)
<https://textmining.userlocal.jp/>



参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、絹地区の地域調査・研究を行う上で参考となるとと思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藺田稔編『神道』弘文堂、1988 年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015 年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979 年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988 年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018 年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21 (1)、日本景観生態学会、2016 年、15-21 頁
<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形・土壌

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第 13 集』小山市教育研究所、1971 年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治 13-19 年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013 年

https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/jiban_houkoku_25.html

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2021 年

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/2021jibannhoukokusho.html>

野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000 年

篠宮佳樹「樹木医学の基礎講座 土壌講座 2: 保水性と通気性」『樹木医学研究』15 (2)、樹木医学会、2011 年、64-67 頁

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

栃木県気候変動適応センター | とちぎの気候変動 今と未来、2022年

https://zerocarbon.pref.tochigi.lg.jp/wp-content/uploads/2023/02/1-2_%E3%81%A8%E3%81%A1%E3%81%8E%E3%81%AE%E6%B0%97%E5%80%99%E5%A4%89%E5%8B%95%E4%BB%8A%E3%81%A8%E6%9C%AA%E6%9D%A5.pdf

沖 大幹『水の未来 - グローバルリスクと日本』岩波書店、2016年

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007年

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

片山直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水田生態系とその保全」『応用生態工学』24 (1)、応用生態工学会、2021年

風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス：概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015年

鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024年

David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110.
<https://sora.unm.edu/index.php/node/121717>

寒川小学校編・発行「寒川小だより 伸樹」861号、2022年3月24日

WWF ジャパン

<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/3458.html>

5 歴史

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表 (近世) |

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html

奈良県立万葉文化館 | 万葉百科 |

https://manyo-hyakka.pref.nara.jp/db/detail?cls=db_manyo&pkey=4376&dicCls=d_utabito&dicDataId=229&detailLnkIdx=0

麓 和善・渡辺勝彦・内藤 昌「初期和算書における建築積算技術」『日本建築学会計画系論文報告集』363、1986年
https://doi.org/10.3130/ai.jax.363.0_115

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、字留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977 年
奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

7 防災・減災

大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997 年

小山市 | 小山市洪水・土砂ハザードマップ
<https://x.gd/Y6V5F>

栃木県「一級河川利根川水系巴波川圏域河川整備計画（第 3 回変更）」2021 年
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/h06/town/kasen/kaishu/documents/20210408111748.pdf>

8 遺跡

秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲 1 号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第 31 号』とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023 年

9 農業

『栃木県下都賀郡誌（復刻版）』千秋社、2004 年（「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録）

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979 年、26-47 頁

高木正敏「近世林野入会の成立——一七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982 年、45-65 頁

吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティヴ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998 年

鎌田磨人「グリーンインフラとしての水田と Eco-DRR」『農村計画学会誌』37 (4)、2019 年

小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r>

小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて
<https://x.gd/UGZZ0>

10 民俗

嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991 年

11 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978 年

12 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006 年

13 寒川地区郷土誌

小山市教育委員会・文化振興課編「おやま百景ガイドブック」小山市、1994 年、2004 年改訂

参考・引用文献

『ふるさと寒川』小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1988 年

『ふるさと寒川 第 2 集』小山市立寒川小学校 PTA 著・発行、1991 年

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料
寒川地区

2025 年 1 月

小山市